



日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日  
Date of Application:

2000年12月25日

出願番号  
Application Number:

特願2000-393083

出願人  
Applicant(s):

ソニー株式会社

RECEIVED

APR 26 2002

GROUP 3600

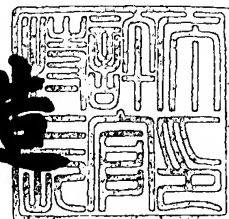
BEST AVAILABLE COPY

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2001年12月21日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及川耕造



【書類名】 特許願

【整理番号】 0000944518

【提出日】 平成12年12月25日

【あて先】 特許庁長官 及川 耕造 殿

【国際特許分類】 G06F 17/60  
G06F 19/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 堀 美幸

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 玉井 博信

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 中村 雅一

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 村上 正気

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代表者】 出井 伸之

【代理人】

【識別番号】 100101557

【弁理士】

【氏名又は名称】 萩原 康司

【電話番号】 03-3226-6631

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 040268

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0012374

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電子チケット管理システム，電子チケット情報読み出し装置，電子チケットプラットフォームセンタ，情報記憶チップ，携帯装置，プログラム記憶媒体および電子チケット管理方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 特定イベントへの参加権限を認証する電子チケット情報を記憶可能な情報記憶チップを利用した電子チケット管理システムであって，

イベントごとに固有のイベント情報を形成し，前記イベント情報に関連付けて電子チケット情報を形成する電子チケット情報形成装置と，

前記電子チケット情報を前記情報記憶チップに記憶可能な電子チケット情報書き込み装置と，

前記イベント情報に対応するイベント会場に設置されて，前記情報記憶チップに記録された電子チケット情報を読み出し，読み出された電子チケット情報に含まれるイベント情報が正規のイベント情報である場合にのみ前記情報記憶チップ携行者の入場を許可する電子チケット情報読み出し装置と，

を備えたことを特徴とする，電子チケット管理システム。

【請求項 2】 前記イベント情報には，少なくとも前記イベントが開催される会場に関する会場情報及び日時に関する日時情報が含まれることを特徴とする，請求項 1 に記載の電子チケット管理システム。

【請求項 3】 前記イベント情報には，さらに座席位置に関する座席情報が含まれることを特徴とする，請求項 2 に記載の電子チケット管理システム。

【請求項 4】 前記電子チケット情報には，さらに情報記憶チップの携行者情報が含まれることを特徴とする，請求項 1 に記載の電子チケット管理システム。

【請求項 5】 前記電子チケット情報形成装置と前記電子チケット情報書き込み装置と前記電子チケット情報読み出し装置とをネットワークを介して接続し，電子チケット情報マスタを介して前記電子チケット情報の流通を管理する電子チケットプラットフォームセンタをさらに含むことを特徴とする，請求項 1 に記載の電子チケット管理システム。



【請求項6】 前記イベント会場には会場管理装置が設置され、前記会場管理装置は前記電子チケット情報読み出し装置により読み出された電子チケット情報を前記イベント会場において管理することを特徴とする、請求項1に記載の電子チケット管理システム。

【請求項7】 前記電子チケット情報読み出し装置は、読み出した前記電子チケット情報を出力する出力装置を備えていることを特徴とする、請求項1に記載の電子チケット管理システム。

【請求項8】 前記電子チケット情報読み出し装置は、読み出した前記電子チケット情報に基づいて、前記携行者が識別可能な案内情報を出力することを特徴とする、請求項1に記載の電子チケット管理システム。

【請求項9】 前記電子チケットプラットフォームセンタは、前記電子チケット情報読み出し装置により読み出された前記電子チケット情報を集計する電子チケット情報後処理部をさらに備えていることを特徴とする、請求項1に記載の電子チケット管理システム。

【請求項10】 特定イベントへの参加権限を認証する電子チケット情報を記憶可能な情報記憶チップの内容を読み出し可能な電子チケット情報読み出し装置であって、

イベント会場に設置されて、前記情報記憶チップに記録された電子チケット情報を読み出し、読み出された電子チケット情報に含まれるイベント情報が正規のイベント情報である場合にのみ前記情報記憶チップ携行者の入場を許可することを特徴とする、電子チケット情報読み出し装置。

【請求項11】 前記イベント情報には、少なくとも前記イベントが開催される会場に関する会場情報及び日時に関する日時情報が含まれることを特徴とする、請求項10に記載の電子チケット情報読み出し装置。

【請求項12】 前記イベント情報には、さらに座席位置に関する座席情報が含まれることを特徴とする、請求項10に記載の電子チケット情報読み出し装置。

【請求項13】 前記電子チケット情報には、さらに情報記憶チップの携行者情報が含まれることを特徴とする、請求項10に記載の電子チケット情報読み

出し装置。

【請求項 1 4】 読み出した前記電子チケット情報を出力する出力装置を備えていることを特徴とする、請求項 1 0 に記載の電子チケット情報読み出し装置。

【請求項 1 5】 読み出した前記電子チケット情報に基づいて、前記携行者が識別可能な案内情報を出力することを特徴とする、請求項 1 0 に記載の電子チケット情報読み出し装置。

【請求項 1 6】 読み出した前記電子チケット情報を、前記電子チケット情報の流通を管理する電子チケットプラットフォームに提供することを特徴とする、請求項 1 0 に記載の電子チケット情報読み出し装置。

【請求項 1 7】 コンピュータをして請求項 1 0 に記載の電子チケット情報読み出し装置として機能させるコンピュータプログラムを記憶した記憶媒体。

【請求項 1 8】 コンピュータをして請求項 1 1 に記載の電子チケット情報読み出し装置として機能させるコンピュータプログラムを記憶した記憶媒体。

【請求項 1 9】 コンピュータをして請求項 1 2 に記載の電子チケット情報読み出し装置として機能させるコンピュータプログラムを記憶した記憶媒体。

【請求項 2 0】 コンピュータをして請求項 1 3 に記載の電子チケット情報読み出し装置として機能させるコンピュータプログラムを記憶した記憶媒体。

【請求項 2 1】 コンピュータをして請求項 1 4 に記載の電子チケット情報読み出し装置として機能させるコンピュータプログラムを記憶した記憶媒体。

【請求項 2 2】 コンピュータをして請求項 1 5 に記載の電子チケット情報読み出し装置として機能させるコンピュータプログラムを記憶した記憶媒体。

【請求項 2 3】 コンピュータをして請求項 1 6 に記載の電子チケット情報読み出し装置として機能させるコンピュータプログラムを記憶した記憶媒体。

【請求項 2 4】 特定イベントへの参加権限を認証する電子チケット情報を記憶可能な情報記憶チップを利用した電子チケット情報の流通を管理する電子チケットプラットフォームセンタであって、

イベント会場に設置された電子チケット情報読み出し装置により、前記情報記憶チップに記録された電子チケット情報を読み出し、読み出された電子チケット

情報に含まれるイベント情報が正規のイベント情報である場合にのみ前記情報記憶チップ携行者の入場を許可するように、電子チケット情報の流通を管理することを特徴とする、電子チケットプラットフォームセンタ。

【請求項 2 5】 イベント会場に設置されて、前記電子チケット情報読み出し装置により読み出された電子チケット情報を前記イベント会場において管理する会場管理装置をさらに含むことを特徴とする、請求項 2 4 に記載の電子チケット管理システム。

【請求項 2 6】 コンピュータをして請求項 2 4 に記載の電子チケットプラットフォームとして機能させるコンピュータプログラムを記憶した記憶媒体。

【請求項 2 7】 コンピュータをして請求項 2 5 に記載の電子チケットプラットフォームとして機能させるコンピュータプログラムを記憶した記憶媒体。

【請求項 2 8】 イベントへの参加権限を認証する電子チケット情報を記憶可能な情報記憶チップであって、

予め記憶された電子チケット情報をイベント会場に設置された電子チケット情報読み出し装置により読み出し、読み出された電子チケット情報に含まれるイベント情報が正規のイベント情報である場合にのみ前記情報記憶チップの携行者の入場が許可されるように構成されたことを特徴とする、情報記憶チップ。

【請求項 2 9】 前記イベント情報には、少なくとも前記イベントが開催される会場に関する会場情報及び日時に関する日時情報が含まれることを特徴とする、請求項 2 8 に記載の情報記憶チップ。

【請求項 3 0】 前記イベント情報には、さらに座席位置に関する座席情報が含まれることを特徴とする、請求項 2 9 に記載の情報記憶チップ。

【請求項 3 1】 前記電子チケット情報には、さらに情報記憶チップの携行者情報が含まれることを特徴とする、請求項 2 9 に記載の情報記憶チップ。

【請求項 3 2】 請求項 2 8 に記載の情報記憶チップを実装する携帯装置。

【請求項 3 3】 請求項 2 9 に記載の情報記憶チップを実装する携帯装置。

【請求項 3 4】 請求項 3 0 に記載の情報記憶チップを実装する携帯装置。

【請求項 3 5】 請求項 3 1 に記載の情報記憶チップを実装する携帯装置。

【請求項 3 6】 特定イベントへの参加権限を認証する電子チケット情報を

記憶可能な情報記憶チップを利用した電子チケット管理方法であって、

電子チケット情報形成装置によりイベントごとに固有のイベント情報を形成し、前記イベント情報に関連付けて電子チケット情報を形成し、

電子チケット情報書き込み装置により前記電子チケット情報を前記情報記憶チップに書き込み、

前記イベント情報に対応するイベント会場に設置された電子チケット情報読み出し装置により、前記情報記憶チップに記録された電子チケット情報を読み出し、読み出された電子チケット情報に含まれるイベント情報が正規のイベント情報である場合にのみ前記情報記憶チップ携行者の入場を許可する、

ことを特徴とする、電子チケット管理方法。

【請求項 3 7】 前記電子チケット情報形成装置と前記電子チケット情報書き込み装置と前記電子チケット情報読み出し装置とをネットワークを介して接続し、電子チケットプラットフォームセンタにより電子チケット情報マスタを介して前記電子チケット情報の流通を管理することを特徴とする、請求項 3 6 に記載の電子チケット管理方法。

【請求項 3 8】 前記イベント会場に会場管理装置を設置し、前記会場管理装置により、前記電子チケット情報読み出し装置により読み出された電子チケット情報を前記イベント会場において管理することを特徴とする、請求項 3 6 に記載の電子チケット管理方法。

【請求項 3 9】 さらに、読み出した前記電子チケット情報に基づいて、前記携行者が識別可能な案内情報を出力することを特徴とする、請求項 3 6 に記載の電子チケット管理方法。

【請求項 4 0】 さらに、前記電子チケット情報読み出し装置により読み出された前記電子チケット情報を集計する電子チケット情報後処理を行うことを特徴とする、請求項 3 6 に記載の電子チケット管理方法。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、電子チケット管理システム、電子チケット情報読み出し装置、電子

チケットプラットフォームセンタ、情報記憶チップ、携帯装置、プログラム記憶媒体および電子チケット管理方法に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

コンサートなどのイベント（公演）の企画にあつては、興行主催者が、出演者、会場、日程などのイベントスケジュールを決定する。さらに興行主催者は、各会場における席種割り振り、金額などを決定する。チケットの販売に関しては、プレイガイドなどのチケット販売代理会社やファンクラブなどに委託していた。そして、イベントへの参加希望者は、プレイガイドなどで紙チケットを購入し、その紙チケット会場に持参し、持参した紙チケットの半券を会場のゲートでもぎりなどの作業員にわたすことにより、イベント参加権限を認証され、会場内に入場していた。

【 0 0 0 3 】

このように、従来、イベントへの参加認証は、イベント情報が記載された紙チケットを媒体として行われていた。

【 0 0 0 4 】

しかしながら、最近では、インターネット環境の整備やＩＣカードなどの情報記憶技術の進歩に伴い、電子化されたチケット情報を携帯することが可能となっている。すなわち、電子化されたチケット情報を、セキュリティに優れたＩＣカードなどの情報記憶チップに記憶し、従来の紙チケットに代用させようとする構想が提案されている。

【 0 0 0 5 】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、従来、イベント会場では、入場に際して、紙チケットの半券を切り取る「もぎり」と称される作業員が、入場の可否を目視で判断していた。そのため、偽造チケットが横行し、大規模な公演ではもぎりのための人件費も無視できないものであった。

【 0 0 0 6 】

もぎりにより切り取られた半券は、公演終了後に、入場者数を把握するために

集計されている。しかしながら、半券の収集では、集計に時間がかかる上に、正確さを欠いていた。また、半券の収集では、実際の入場者の動向を把握することが困難であり、集計はアバウトなものとならざるを得なかった。

#### 【0007】

また、障害者への座席案内などは、実際には専任の担当者が必要であるため、特定の公演や、専任の担当者が常任する会場でしか対応することができなかった。したがって、障害のある顧客は、付き添いがいない限り、単独でイベントに参加することが困難であった。

#### 【0008】

本発明は、従来のゲート管理システムが有する上記のおよび他の問題点に鑑みてなされたものであり、ゲート管理を効率的に行うことが可能な新規かつ改良されたゲート管理システム等を提供することを目的としている。

#### 【0009】

##### 【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、本発明の第1の観点によれば、特定イベントへの参加権限を認証する電子チケット情報を記憶可能な情報記憶チップを利用した電子チケット管理システムであって、イベントごとに固有のイベント情報を形成し、前記イベント情報に関連付けて電子チケット情報を形成する電子チケット情報形成装置と、前記電子チケット情報を前記情報記憶チップに記憶可能な電子チケット情報書き込み装置と、前記イベント情報に対応するイベント会場に設置されて、前記情報記憶チップに記録された電子チケット情報を読み出し、読み出された電子チケット情報に含まれるイベント情報が正規のイベント情報である場合にのみ前記情報記憶チップ携行者の入場を許可する電子チケット情報読み出し装置と、を備えたことを特徴とする、電子チケット管理システムが提供される。

#### 【0010】

上記電子チケット管理システムにおいて、前記イベント情報には、少なくとも前記イベントが開催される会場に関する会場情報及び日時に関する日時情報が含まれることが好ましい。さらに、前記イベント情報には、さらに座席位置に関する座席情報が含まれることが好ましい。また、前記電子チケット情報には、さら

に情報記憶チップの携行者情報が含まれることが好ましい。

【0011】

上記電子チケット管理システムにおいて、前記電子チケット情報形成装置と前記電子チケット情報書き込み装置と前記電子チケット情報読み出し装置とをネットワークを介して接続し、電子チケット情報マスタを介して前記電子チケット情報の流通を管理する電子チケットプラットフォームセンタをさらに含むことが好ましい。

【0012】

上記電子チケット管理システムにおいて、前記イベント会場には会場管理装置が設置され、前記会場管理装置は前記電子チケット情報読み出し装置により読み出された電子チケット情報を前記イベント会場において管理することが好ましい。

【0013】

上記電子チケット管理システムにおいて、前記電子チケット情報読み出し装置は、読み出した前記電子チケット情報を出力する出力装置を備えていることが好ましい。また前記電子チケット情報読み出し装置は、読み出した前記電子チケット情報に基づいて、前記携行者が識別可能な案内情報を出力することが好ましい。さらに、前記電子チケットプラットフォームセンタは、前記電子チケット情報読み出し装置により読み出された前記電子チケット情報を集計する電子チケット情報後処理部をさらに備えていることが好ましい。

【0014】

上記課題を解決するために、本発明のさらに別の観点によれば、特定イベントへの参加権限を認証する電子チケット情報を記憶可能な情報記憶チップの内容を読み出し可能な電子チケット情報読み出し装置であって、イベント会場に設置されて、前記情報記憶チップに記録された電子チケット情報を読み出し、読み出された電子チケット情報に含まれるイベント情報が正規のイベント情報である場合にのみ前記情報記憶チップ携行者の入場を許可することを特徴とする、電子チケット情報読み出し装置が提供される。

【0015】

上記電子チケット情報読み出し装置において、前記イベント情報には、少なくとも前記イベントが開催される会場に関する会場情報及び日時に関する日時情報が含まれることが好ましい。また、前記イベント情報には、さらに座席位置に関する座席情報が含まれることが好ましい。前記電子チケット情報には、さらに情報記憶チップの携行者情報が含まれることが好ましい。

## 【 0 0 1 6 】

上記電子チケット情報読み出し装置は、読み出した前記電子チケット情報を出力する出力装置を備えていることが好ましい。さらに、読み出した前記電子チケット情報に基づいて、前記携行者が識別可能な案内情報を出力することが好ましい。また、読み出した前記電子チケット情報を、前記電子チケット情報の流通を管理する電子チケットプラットフォームに提供することが好ましい。

## 【 0 0 1 7 】

上記課題を解決するために、本発明の別の観点によれば、コンピュータをして上記電子チケット情報読み出し装置として機能させるコンピュータプログラムを記憶した記憶媒体が提供される。

## 【 0 0 1 8 】

さらに上記課題を解決するために、本発明の別の観点によれば、特定イベントへの参加権限を認証する電子チケット情報を記憶可能な情報記憶チップを利用した電子チケット情報の流通を管理する電子チケットプラットフォームセンタであって、イベント会場に設置された電子チケット情報読み出し装置により、前記情報記憶チップに記録された電子チケット情報を読み出し、読み出された電子チケット情報に含まれるイベント情報が正規のイベント情報である場合にのみ前記情報記憶チップ携行者の入場を許可するように、電子チケット情報の流通を管理することを特徴とする、電子チケットプラットフォームセンタが提供される。

## 【 0 0 1 9 】

上記電子チケットプラットフォームセンタは、イベント会場に設置されて、前記電子チケット情報読み出し装置により読み出された電子チケット情報を前記イベント会場において管理する会場管理装置をさらに含むことが好ましい。

## 【 0 0 2 0 】



さらに上記課題を解決するために、本発明の別の観点によれば、コンピュータをして上記電子チケットプラットフォームとして機能させるコンピュータプログラムを記憶した記憶媒体が提供される。

#### 【 0 0 2 1 】

さらに上記課題を解決するために、本発明の別の観点によれば、イベントへの参加権限を認証する電子チケット情報を記憶可能な情報記憶チップであって、予め記憶された電子チケット情報をイベント会場に設置された電子チケット情報読み出し装置により読み出し、読み出された電子チケット情報に含まれるイベント情報が正規のイベント情報である場合にのみ前記情報記憶チップの携行者の入場が許可されるように構成されたことを特徴とする、情報記憶チップが提供される。

#### 【 0 0 2 2 】

上記情報記憶チップにおいて、前記イベント情報には、少なくとも前記イベントが開催される会場に関する会場情報及び日時に関する日時情報が含まれることが好ましい。また、前記イベント情報には、さらに座席位置に関する座席情報が含まれることが好ましい。さらに、前記電子チケット情報には、さらに情報記憶チップの携行者情報が含まれることが好ましい。

#### 【 0 0 2 3 】

さらに上記課題を解決するために、本発明の別の観点によれば、上記情報記憶チップを実装する携帯装置が提供される。

#### 【 0 0 2 4 】

さらに上記課題を解決するために、本発明の別の観点によれば、特定イベントへの参加権限を認証する電子チケット情報を記憶可能な情報記憶チップを利用した電子チケット管理方法であって、電子チケット情報形成装置によりイベントごとに固有のイベント情報を形成し、前記イベント情報に関連付けて電子チケット情報を形成し、電子チケット情報書き込み装置により前記電子チケット情報を前記情報記憶チップに書き込み、前記イベント情報に対応するイベント会場に設置された電子チケット情報読み出し装置により、前記情報記憶チップに記録された電子チケット情報を読み出し、読み出された電子チケット情報に含まれるイベン

ト情報が正規のイベント情報である場合にのみ前記情報記憶チップ携行者の入場を許可する、ことを特徴とする、電子チケット管理方法が提供される。

#### 【 0 0 2 5 】

上記電子チケット管理方法において、前記電子チケット情報形成装置と前記電子チケット情報書き込み装置と前記電子チケット情報読み出し装置とをネットワークを介して接続し、電子チケットプラットフォームセンタにより電子チケット情報マスタを介して前記電子チケット情報の流通を管理することが好ましい。また、前記イベント会場に会場管理装置を設置し、前記会場管理装置により、前記電子チケット情報読み出し装置により読み出された電子チケット情報を前記イベント会場において管理することが好ましい。さらに、読み出した前記電子チケット情報に基づいて、前記携行者が識別可能な案内情報を出力することが好ましい。さらに、前記電子チケット情報読み出し装置により読み出された前記電子チケット情報を集計する電子チケット情報後処理を行うことが好ましい。

#### 【 0 0 2 6 】

##### 【発明の実施の形態】

以下に、添付図面を参照しながら、本発明にかかる電子チケット管理システム等の好適な実施形態について詳細に説明する。なお以下の説明及び添付図面において、略同一の機能構成を有する構成要素については、同一の符号を付することにより重複説明を省略する。

#### 【 0 0 2 7 】

##### (1) システムの概要

本実施の形態にかかる電子チケット管理システム等は、チケットプラットフォームセンタと、興行主催者と、チケット販売者と、会場とを相互に接続し、販売者経由で電子チケットを購入した顧客が滞りなく会場に入場できように連携するシステムを提供するものである。興行主催者とチケット販売者と顧客とチケット販売者各々の基本的な関係は従来どおりのものを採用可能である。ただし、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム等においては、電子チケット並びにＩＣカードの認証に関して、チケットプラットフォームセンタが介在する点が特徴となる。

【 0 0 2 8 】

本実施の形態にかかる電子チケット管理システム等においては、ＩＣカードなどの情報記憶チップを用いた電子チケット共通化のために、電子チケットプラットフォームセンタを設けている。そして、この電子チケットプラットフォームセンタを介して、配券・発券・ゲート管理といった興行主催者、販売者、会場および顧客間における電子チケット情報のやりとりをネットワーク化し、一元的に管理共有することが可能となる。

【 0 0 2 9 】

本実施の形態にかかる電子チケット管理システム等は、電子チケット情報の流通に関し、さまざまなフェーズにおいて、さまざまな機能を提供する。

【 0 0 3 0 】

その詳細については後述するが、例えば興行主催者と電子チケットプラットフォームセンタ間における電子チケット情報の流通システムとして、配券システムを提供する。

【 0 0 3 1 】

また、チケット販売者、顧客、電子チケットプラットフォームセンタ間における電子チケット情報の流通システムとして、電子チケット発券システムを提供する。

【 0 0 3 2 】

さらに電子チケットプラットフォームセンタと会場間における電子チケット情報の流通システムとして、ゲート管理システムを提供する。

【 0 0 3 3 】

そのほかにも、チケット販売者の販売ポータルに必要な販売ジャーナルの発行などの諸機能や、請求処理機能、データ分析を行う後処理機能、ＩＣカードを発行のための各種システムを提供する。

【 0 0 3 4 】

( 2 ) システムの構成

( 2 - 1 ) システムの全体的構成

まず、図 1 を参照しながら、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム

の全体的な構成について説明する。

【 0 0 3 5 】

図 1 に示すように、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム 1 0 0 は、電子チケット情報の流通を管理する電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 と、イベントを企画して実行する興行主催者装置である興行主催者 1 2 0 と、電子チケット情報を販売する電子チケット販売装置である電子チケット販売者 1 3 0 と、実際に電子チケットを購入する顧客 1 4 0 と、顧客 1 4 0 が有する情報記憶チップに電子チケット情報を書き込み可能な店舗端末装置 1 5 0 と、イベントが開催されるイベント会場 1 6 0 と、これらの各構成要素を連携するインターネットなどのネットワーク 1 7 0 から主に構成されている。

【 0 0 3 6 】

なお本発明にかかる電子チケット管理システム 1 0 0 の最小の単位は、突き詰めれば、電子チケットの供給者と電子チケットの使用者である顧客 1 4 0 である。図 1 に示したシステム構成では、本発明にかかる電子チケット管理システム 1 0 0 の理解を容易にするために、電子チケットの供給者を、興行主催者 1 2 0、電子チケット販売者 1 3 0、店舗端末装置 1 5 0、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0、ゲート端末装置などに分割して示しているが、本発明はかかる構成に限定されない。本発明にかかる電子チケットの供給者を構成するにあたっては、複数の機能ブロックを一つの記憶ブロックとして構成したり、あるいは、ひとつの機能ブロックを複数の機能ブロックとして構成したりすることも可能であり、それらについても当然に本発明の技術的範囲に属するものと了解される。

【 0 0 3 7 】

( 2 - 2 ) 電子チケット

本実施の形態にかかる電子チケット管理システム 1 0 0 の各機能ブロックの構成について詳細に説明する前に、本システムによるサービスの対象となる「電子チケット」について説明する。

【 0 0 3 8 】

電子チケットは、デジタル化されたチケット情報であり、特定のイベントに関するイベント情報に関連付けられて、そのイベントへの参加権限を認証する電子

チケット情報を含むものである。電子チケットは、インターネットなどのネットワーク 1 7 0 を介して、デジタル情報として流通させることも可能であるが、I C カードなどの情報記憶チップに記憶させ、顧客 1 4 0 が携行することも可能である。

#### 【 0 0 3 9 】

電子チケットには、通常の紙チケットに記載可能なさまざまな情報を含ませることができる。例えば、開場時間、開演時間、公演名、アーティスト名、会場名、席番号、入場ゲート、興行主催者名、電子チケット販売者 1 3 0 名、問い合わせ先などに関する情報をあらかじめ記憶しておくことが可能である。

#### 【 0 0 4 0 】

##### ( 2 - 3 ) 情報記憶チップ

本実施の形態にかかる電子チケット管理システム 1 0 0 に利用可能な情報記憶チップは、電子チケット情報を格納可能な記憶装置である。本実施の形態にかかる情報記憶チップは、盗用などを防止するために、電子チケット情報を書き込む場合には、特殊なアクセスキーなどの認証権限が必要であるが、格納された電子チケット情報の読み出しは特定の認証なしにフリーに行うことが可能である。

#### 【 0 0 4 1 】

情報記憶チップは、接触型または非接触型の I C カードなどに実装して用いることが可能である。本実施の形態にかかる情報記憶チップは、顧客 1 4 0 が電子チケット情報を購入した後にイベントが行われる会場まで携行できる方が便利なので、一般的には携行装置に実装されて用いられる。情報記憶チップを実装可能な携行装置としては、先に挙げた、I C カードなどのほか、携帯端末や携帯電話などが挙げられる。

#### 【 0 0 4 2 】

図 1 0 には、情報記憶チップの一例として、非接触型の I C カード 1 0 0 0 が示されている。非接触型の I C カード 1 0 0 0 は、情報記憶チップである I C チップ内に通信機能が組み込まれたものである。図示のように、I C カード 1 0 0 0 の携行者 1 0 0 1 が、公演会場のゲートに設置された I C カードリーダー 1 0 0 2 に I C カード 1 0 0 0 をかざすことにより、情報記憶チップ内の電子チケット

情報が読み出される。後述するように、電子チケット情報は、ゲート端末装置において、会場管理のために利用されるほか、ＩＣカードの携行者である入場者を円滑に座席に誘導するために、表示装置１００３にその内容を表示したり、あるいはプリンタ１００４により所定の用紙にその内容をプリントアウトしたりできるように構成することができる。

#### 【００４３】

図１１には、情報記憶チップに記憶される電子チケット情報のデータ構造が示されている。図示のように、電子チケット情報格納エリアには、電子チケットを発行する主体である発行体記憶する発行体エリアや、公演ＩＤエリア、公演情報エリア、各情報の管理領域が配置されている。

#### 【００４４】

本実施の形態にかかる電子チケット管理システム１００において利用される電子チケット情報は、図示のように、複数の公演情報を同時に管理できるように構成されている。さらに公演ごとに複数枚の電子チケットを管理することができるように構成されている。このように構成することにより、１枚の電子チケットを複数の公演の電子チケットとして利用することが可能となる。また、電子チケットの購入時に、複数の電子チケットを購入し、後で、第三者に電子チケットを分配したり譲渡したりするような使用法方が可能となる。

#### 【００４５】

##### （２－４） 電子チケットプラットフォームセンタ１１０

電子チケットプラットフォームセンタ１１０内には、図１示すように、電子チケット関係のデータを管理するチケットデータベースサーバ（Ticket DB S）１１１と、電子チケットの運用鍵関連のサーバ（DB S）１１２とＩＣカード認証・ダウンロード用のセキュリティーサーバ（SS）１１３と、インターネット入口のサービスを受け付けるアプリケーションサーバ（AP S）１１４などが設置されている。

#### 【００４６】

電子チケットプラットフォームセンタ１１０は、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム１００において、電子チケット情報の流通を管理する機能を

有するものである。特に、本実施の形態においては、電子チケットプラットフォームセンタ110は、ネットワーク170を介して、興行主催者120の端末など、システムの各構成要素にサービスを提供可能なように、ウェブサーバとして機能可能なコンピュータ装置として構成されている。

#### 【0047】

図2に示すように、電子チケットプラットフォームセンタ110は、情報登録部201と、電子チケット発券部202と、電子チケット販売ジャーナル管理部203と、認証部204と、経理部205と、後処理部206とから主に構成されている。

#### 【0048】

情報登録部201は、システム必要な各種マスタの登録処理を行う機能構成部分である。ここで管理されるマスタの一例を図4に示す。

#### 【0049】

興行主催者マスタ401には、イベントを企画し配券作業を行う興行主催者120に関する情報が登録される。この興行主催者マスタ401は、電子チケットプラットフォームセンタ110で作成される。

#### 【0050】

イベントマスタ402は、興行主催者120において作成され、電子チケットプラットフォームセンタ110に登録される。イベントマスタ402は、イベントに関する各種情報を管理するマスタである。イベントマスタ402には、例えばイベントが開催される会場に関する会場情報やイベントが開催される日時に関する日時情報を管理する会場マスタ403が含まれる。さらにイベントマスタ402には、会場における席種や席属種を決定する座席マスタ404などが含まれる。

#### 【0051】

電子チケット販売者マスタ405も、一次的には、興行主催者120において作成され、電子チケットプラットフォームセンタ110に登録される。興行主催者120は、イベントを企画した後に、イベントに関する電子チケットを販売する電子チケット販売者130を決定するとともに、各電子チケット販売者130

に対する電子チケットの配布割合を決定し、それらを電子チケット販売者マスタ 405として登録する。

【0052】

販売ジャーナル406は、各電子チケット販売者130、あるいは店舗端末装置150における電子チケットの販売履歴に関するログのレポートである。販売ジャーナル406は、電子チケット販売者130において作成され、電子チケットプラットフォームセンタ110に登録される。

【0053】

携行者マスタ407は、各電子チケット販売者130において販売された電子チケットの販売先に関する情報マスタ。携行者マスタ407は、各電子チケット販売者130において作成され、電子チケットプラットフォームセンタ110に登録される。

【0054】

電子チケットマスタ408は、電子チケット情報に関する総括的なデータ管理マスタである。電子チケットマスタ408は、上記のような興行主催者マスタ401、イベントマスタ402、電子チケット販売者マスタ405、携行者マスタ407などに関連付けられて、電子チケットプラットフォームセンタ110により管理される。

【0055】

再び図2に戻り、電子チケット発券部202は、電子チケット販売者130と連携して、電子チケットを記憶可能な情報記憶チップの携行者に対して、電子チケットの発券作業を行う。

【0056】

図3には、電子チケット発券部202の構成例が示されている。電子チケット発券部202は、発券受付部301と、認証部302と、発券処理部303と、報告部304とから主に構成されている。発券受付部301は、電子チケット販売者130や店舗端末装置150から発券要求を受け付ける。この発券要求を受けて、認証部302などにおいて認証処理を行い、認証が肯定的な場合には発券処理が行われる。発券処理の結果は、報告部304を介して所定の機能部に報告



され、例えば電子チケットマスタ408が更新される。

【0057】

具体的には、電子チケットの販売が、インターネット介して行われる場合には、電子チケット販売者130を介して販売許可がなされた情報記憶チップの携行者に対して、対象となる電子チケット情報のダウンロードを許可することにより、電子チケット処理の発券処理が行われる。

【0058】

これに対し、プレイガイドやコンビニエンスストアなどに設置されるマルチメディアキオスク（MMK）などの店舗端末装置150を介して電子チケットの販売が行われる場合には、店舗端末装置150に対して電子チケットの販売を許可する認証権限を付与して、店舗端末装置150において、発券処理が行われる。

【0059】

販売ジャーナル管理部203は、電子チケット販売者130から適時報告される電子チケットの販売ログを管理する。また、販売ジャーナル406は適宜興行主催者120に報告され、興行主催者120は販売ジャーナル406を参照し、必要に応じて再販などの処理を行う。

【0060】

認証部204は、電子チケット販売者130や店舗端末装置150などからの要求を受けて、顧客140に対して電子チケット情報のダウンロードを許可したり、店舗端末装置150による電子チケット情報の書き込みを許可したりする機能を有している。

【0061】

経理部205は、電子チケット管理システム100に関する経理処理や請求処理を総括する機能を有する。電子チケット代金は、顧客140から電子チケット販売者130により一次的に回収され、電子チケットプラットフォームセンタ110の経理部205を介して、興行主催者120やイベント会場160などに所定の代金が二次的に支払われるように構成することができる。

【0062】

後処理部206は、電子チケット管理システム100に関する各種後処理を行

う機能を有する。その代表的な例は、各イベント会場 1 6 0 のゲート端末装置から回収された入場者情報の分析である。

#### 【 0 0 6 3 】

一般に、チケットの購買者と入場者とは一対一で対応するわけではない。現実には、チケット購買者が複数枚のチケットを同時に購入したり、他人のためにチケット購入したりする行為が行われる。その結果、チケット購買者と入場者との不一致が生じる。従来、インターネットショッピングなどによるチケット販売が一般的に行われている。かかるインターネットショッピングによれば、チケット購買者の情報は比較的容易に収集することができる。しかしながら、チケット購買者と入場者との不一致を考慮すると、実際の入場者に関する情報収集することは困難であった。この点、本システムによれば、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 において、電子チケット情報などの後処理を行うことにより、チケットの購買者と実際の入場者との関係や、チケット購買地域と入場者との関係など、事後のマーケティングに役立つ有用な情報を得ることが可能である。

#### 【 0 0 6 4 】

##### ( 2 - 5 ) 興行主催者 1 2 0

興行主催者 1 2 0 は、本に明細書に固有の概念である。興行主催者 1 2 0、後述する電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 にネットワーク 1 7 0 を介してアクセス可能なクライアントのうち、イベントを企画して、イベントごとに固有のイベント情報を形成し、イベント情報を電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 に登録する機能を有するクライアントとして定義される。したがって、興行主催者 1 2 0 は、クライアントが備えている一般的な機能、すなわち、通信機能やブラウザ機能などを備えたコンピュータであるが、クライアントとしての機能を備えた家電装置や携帯端末装置なども含まれる。

#### 【 0 0 6 5 】

図 5 には、興行主催者 1 2 0 の主な機能が機能ブロック図として示されている。

#### 【 0 0 6 6 】

興行主催者 1 2 0 は、図 5 に示すように、イベント企画部 5 0 1 と、情報登録

部 5 0 1 と、配券処理部 5 0 3 と、進行状況管理部 5 0 4 と、経理部 5 0 5、後処理部 5 0 6 とから主に構成されている。

【 0 0 6 7 】

イベント企画部 5 0 1 は、電子チケットにより運用されるイベント内容を決定する。ここで決定されるイベント内容には、イベントに出演するアーティスト名、イベントが開催される会場名、開場時間、開演時間、公演名、座席番号、入場ゲート、興行主催者名、電子チケット販売者名、問い合わせ先などのイベントに関する各種情報が含まれる。

【 0 0 6 8 】

情報登録部 2 0 1 は、イベント企画部において企画されたイベントに基づいて、各種情報マスタを作成する。主に興行主催者 1 2 0 側で登録される情報としては、電子チケット販売者マスタ 4 0 5、座席マスタ 4 0 4、会場マスタ 4 0 3 などである。これらの情報は、ネットワーク 1 7 0などを介して、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 に送られ管理される。

【 0 0 6 9 】

配券処理部 5 0 3 は、電子チケットを販売する電子チケット販売者 1 3 0 を決定し、各電子チケット販売者 1 3 0 で扱う電子チケットの枚数、席種・席属種などを決定する配券処理を行う。配券処理の結果は、イベントマスタ 4 0 2 として電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 に送られ管理される。

【 0 0 7 0 】

配券処理部 5 0 3 の詳細については、図 6 に示されている。図 6 に示すように、配券処理部 5 0 3 は、座席情報形成装置 6 0 1 と、表示装置 6 0 2 と、選択装置 6 0 3 と、配券装置 6 0 4 とから主に構成されている。

【 0 0 7 1 】

座席情報形成装置 6 0 1 は、会場マスタ 4 0 3 などから席種・席属種などの座席情報を GUI ( G r a f i c a l   U s e r   I n t e r f a c e ) 表示可能なように処理する。例えば、席種・席属種に応じて、画面表示される座席の表示色を変更するなどの処理を行うことができる。

【 0 0 7 2 】

表示装置602は、座席情報形成装置601より、グラフィカル表示可能なように処理された座席情報をCRTなどに表示し、オペレータは、その画面を見ながら、容易に配券処理を行うことができる。

#### 【0073】

選択装置603は、オペレータにより選択された座席情報を各電子チケット販売者130に割り振る機能を有する。選択操作にあたっては、2人連れなどのグループ入場者に対応可能なように、複数の座席をひとつの選択単位として処理することが可能である。また、選択方法としては、マウスのドラッグ機能を利用したり、キーボードの複数のキーを同時に押下するダブルキー操作を利用したりすることにより、選択操作の効率を高めることが可能である。

#### 【0074】

配券装置604は、選択装置603により選択された席割に関する配券情報を電子チケットプラットフォームセンタ110にエクスポートし登録する。電子チケットプラットフォームセンタ110は、配券装置から提供された電子チケットの仕入れ情報を、対応する電子チケット販売者130に配布し、電子チケットの販売を委託する。

#### 【0075】

再び図5に戻り、興行主催者120の進行状況管理部504は、イベントまでのスケジュール管理を行うほか、電子チケット販売者130や店舗端末装置150などから報告される販売ジャーナル406を監視することにより、電子チケットの販売状況を把握する。その結果、必要な場合には、売れ行きが不振な電子チケット販売者130から電子チケットの回収を行い、別の電子チケット販売者130に電子チケットの再販などを行う。

#### 【0076】

経理部505は、興行主催者120に関連する経理処理を総括する。興行主催者120がかかわる経理処理としては、例えばアーティストに対する出演料の支払い、会場に対する会場使用料の支払いなどがある。また、電子チケットプラットフォームセンタ110や電子チケット販売者130から電子チケットの代金を回収したり、逆に、電子チケットプラットフォームセンタ110や電子チケット販

売者130に対して管理手数料や販売委託手数料を支払ったりする経理処理なども存在する。これらの経理処理については、システムの構成に応じて大きく異なるものであり、ここでは詳細説明を省略する。

【0077】

後処理部506は、電子チケットプラットフォームセンタ110や電子チケット販売者130や会場のゲート端末などから回収した電子チケット情報を分析処理する機能を有する。この後処理部で、興行レビューを行うことにより、次の興行のためのマーケティング情報を得ることが可能となる。

【0078】

(2-6) 電子チケット販売者130

電子チケット販売者130は、実際に顧客140に対して電子チケットを販売する権限を有する端末装置であり、インターネットなどのネットワークを介して顧客140へのアクセス可能なウェブサーバやプレイガイドなどに設置され顧客140と対面するオペレータが操作可能な端末装置が含まれる。したがって、電子チケット販売者130は、クライアントやサーバが備えている一般的機能、すなわち通信機能やブラウザ機能などを備えたコンピュータであるが、これらの機能を備えた家電装置や携帯端末装置なども含まれる。

【0079】

図7には、電子チケット販売者130の機能構成ブロックの一例が示されている。図示のように、電子チケット販売者130は、配券交渉部701と、マスタ登録部702と、購入受付部703と、認証部704と、販売ジャーナル管理部705と、経理部706と、後処理部707とから主に構成されている。

【0080】

さらに、電子チケット販売者130において、情報記憶チップに電子チケット情報を書き込んだり、あるいは情報記憶チップに記録されている内容を読み出したりする構成を採用する場合には、書き込み部や読み出し部（リーダ／ライタ）を備える必要がある。

【0081】

また、電子チケット販売者130において、情報記憶チップに記録された内容

を読み出して、さらに紙などのメディアに出力する必要がある場合には、プリンタなどの外部出力部を設ける必要がある。

【0082】

配券交渉部701は、興行主催者120との間で、電子チケットの配券交渉を行う機能を有する。一般に、イベントのチケット販売は、興行主催者120が、会員などに対して直販するような場合を除き、複数のチケット販売代理店を介して行われる。電子チケット販売者130は、一般にチケット販売代理店側に設置される端末装置であり、自己のチケット販売成績を有利に進めることができる座席を獲得できるように、興行主催者120側と交渉する。この交渉に応じて、興行主催者120は、イベントの電子チケットを扱うチケット販売代理店を決定するとともに、各チケット代理店に配布される電子チケットの席種・席属種などが決定される。

【0083】

電子チケット販売者130のマスタ登録部702は、イベント情報や電子チケット情報を、電子チケットプラットフォームセンタ110や興行主催者120から入手し、電子チケット販売の基礎データとなる電子チケット販売者用イベントマスタを制作する。電子チケット販売者用イベントマスタは、販売履歴に応じて、適宜更新され、販売ジャーナル管理部705により管理される。

【0084】

購入受付部703は、会員などのチケット購入希望者から直接電子チケットの購入要求を受け付けたり、あるいは後述する店舗端末装置150などから間接的に電子チケットの購入要求を受け付けたりする。

【0085】

認証部704は、購入受付部703により受け付けられた電子チケットの購入要求を審査し、例えばクレジットカード番号などからチケット購入希望者の与信調査を行い、チケット代金の支払い能力があると判断される場合には、電子チケットの販売を許可する。

【0086】

販売ジャーナル管理部705は、電子チケット販売者130における電子チケ

ットの販売実績を管理し、必要に応じて、販売ジャーナル406を電子チケットプラットフォームセンタ110や興行主催者120に報告する。

#### 【0087】

経理部706は、電子チケット販売者130が関連する経理処理を総括する。電子チケット販売者130が関連する主な経理処理としては、チケット購入者からのチケット代金の回収および回収代金の電子チケットプラットフォームセンタ110や興行主催者120への送金、さらには電子チケットプラットフォームセンタ110や興行主催者120からの販売委託手数料の回収などがある。ただし、電子チケット販売者130の経理処理についても、システムの構成に応じて、さまざまな構成を採用することが可能であり、ここでは詳細な説明は省略するものとする。

#### 【0088】

後処理部707は、電子チケット販売者130が関連する電子チケット情報を集計し分析する機能を有する。例えば、電子チケットを購入した顧客140の年齢、職業、性別などに関する個人属種情報や、購入枚数、購入場所などをデータベース化することにより、システムの他の構成ブロックにおいて回収された情報とリンクさせることにより、次回以降のイベント企画などに有益な情報を得ることができる。

#### 【0089】

#### (2-7) 店舗端末装置150

次に、図8を参照しながら、店舗端末装置150の構成について説明する。店舗端末装置150は、電子チケット販売者130により管理される情報記憶チップへの書き込みおよび読み出し機能を備えた端末装置である。店舗端末装置150は、例えばプレイガイドやコンビニエンスストアなどに設置されるマルチメディアキオスク(MMK)として構成することができる。

#### 【0090】

図示のように、店舗端末装置150は、読み出し部801と、認証部802と、書き込み部803と、経理部804と、出力表示部805から主に構成される。一般的には、店舗端末装置150は、チケット購入希望者が画面を見ながら自

ら操作可能なマルチメディアキオスクのような端末装置である。

【 0 0 9 1 】

読み出し部 8 0 1 は、情報記憶チップに記憶された携行者の識別番号や電子チケット情報を読み出す機能を有している。情報記憶チップが、例えば接触型 I C カードのような場合には、カード挿入口とカード排出口とを備えたカードリーダーが設けられる。情報記憶チップが、例えば非接触型 I C カードのような場合には、I C カードをかざすことにより情報記憶チップに記憶された電子チケット情報を読み出すことが可能なカードリーダーが設けられる。

【 0 0 9 2 】

認証部 8 0 2 は、読み出し部 8 0 1 において読み出しされた携行者の識別番号や電子チケット情報を確認する機能を有する。例えば、情報記憶チップの携行者が、店舗端末装置 1 5 0 を利用して、電子チケットを購入する場合には、まず、チケット購入希望者が購入希望するチケットの購入が可能かどうかを、電子チケット販売者 1 3 0 あるいは電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 に照会する。その結果、チケットの購入が可能であるという回答得られた場合には、読み出し部 8 0 1 が、情報記憶チップに記憶された携行者の識別番号などから携行者のチケット代金支払い能力などを与信調査し、電子チケットの購入許可を与える。

【 0 0 9 3 】

書き込み部 8 0 3 は、認証部 8 0 2 により書き込み許可が与えられた情報記憶チップに対して新たな電子チケット情報を書き込む。あるいは、書き込み部 8 0 3 は、後述するようなチケット分配処理が行われる場合には、分配対象である電子チケット情報を、再利用不能なように、書き換えを行う。

【 0 0 9 4 】

出力表示部 8 0 4 は、店舗端末装置 1 5 0 において実施されている処理の状況を画面表示したり、あるいは購入者の要求に応じて紙などの媒体に必要な情報を記録したりする機能を有する。

【 0 0 9 5 】

( 2 - 9 )    ゲート端末装置 1 8 0



次に、図9を参照しながら、イベントが行われるイベント会場160のゲートに設置されるゲート端末装置180の構成について説明する。

#### 【0096】

このゲート端末装置180の基本的な機能は、入場者が携行する情報記憶チップに記憶された電子チケット情報を読み出し、当該携行者の入場の許可あるいは否定を行うことである。特に、本システムに特徴的な認証方法は、情報記憶チップに記憶された情報記憶チップの固有の識別番号から入場可否の認証を行うのではなく、あらかじめイベントごとに設定されたイベント識別番号に応じて入場許可の認証を行う点である。

#### 【0097】

すなわち、本システムによれば、ゲート端末装置180は、情報記憶チップの固有の識別番号を判断することなく、正規のイベント識別番号が記憶された情報記憶チップを携行するすべての入場者の入場を許可するのである。

#### 【0098】

このイベント識別番号は、イベント情報の一部として組み込まれている。もちろん、イベントごとに複数のイベント識別番号を設定することも可能である。例えば、アリーナ席への入場者と他の一般席への入場者とのゲートを区別したい場合には、それぞれ別の識別番号を設定し、情報記憶チップに記憶することが可能である。

#### 【0099】

図9に示すゲート端末装置180は、上記機能を実行するために、情報読み出し部901と、認証部902と、表示部903と、情報管理部904と、後処理部905とを主な構成要素としている。

#### 【0100】

情報読み出し部901は、入場者が携行する情報記憶チップから電子チケット情報読み出す機能を有する情報記憶チップリーダーである。非接触型ICカードに情報記憶チップが組み込まれている例を、図10に示す。図示のように、入場者1001は携帯端末装置の情報読み出し部1002(901)に対してICカード1000をかざすことにより、情報記憶チップ内に記憶されている電子チケッ

ト情報を読み出させることができる。

【0101】

認証部902は、情報読み出し部901において読み出された電子チケット情報の中からイベント情報、特にそのイベントに固有の識別番号に基づいて情報記憶チップ携行者の入場可否の認証を行う。本システムにおいては、すでに説明したように、情報記憶チップごとに割り当てられた識別番号は問題とせずに、あらかじめイベントに割り当てられたイベント固有のイベント情報のみを問題とし、そのイベント情報が記録された情報記憶チップの携行者の入場を許可するように構成されている。

【0102】

表示部903は、情報読み出し部901において読み出された電子チケット情報を適宜加工して入場者1001に提供する。例えば、図10に示す実施例では、入場者1001に座席番号および会場における座席位置を表示することにより、入場者1001を円滑に座席にまで誘導することが可能である。また、図10に示す実施例では、プリント装置1004も設けられており、情報記憶チップに記憶されている電子チケット情報内容をプリントアウトして入場者に配布することも可能である。

【0103】

情報管理部904は、情報読み出し部901により読み出された電子チケット情報管理する。例えば、開演間際になっても、所定人数の入場者が入らなかった場合には、開演時間を遅らせるなどの処理を行うことができる。また本システムによれば、入場の許可は、情報記憶チップの固有識別番号に基づくことなく、イベントの識別番号によって判断されるので、電子チケットプラットフォームセンタ110などのデータマスタに、情報記憶チップの固有識別番号などを照会する必要がないので、開演直前まで、電子チケットの販売を行うことができる。このように、当日販売分の電子チケット情報に関しては、この情報管理部904において管理される。

【0104】

後処理部905は、ゲート端末装置180において収集された電子チケット情

報を集計して、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 や興行主催者 1 2 0 が電子チケット販売者 1 3 0 に送付する機能を有する。すでに説明したように、チケットを購入する人と、実際にイベントに参加する人とは、必ずしも一致しておらず、会場のゲート端末装置 1 8 0 において収集される電子チケット情報は、実際の入場者を反映するデータとして後のマーケティングに有用な情報として活用可能である。

## 【 0 1 0 5 】

## ( 2 - 1 0 ) ネットワーク 1 7 0

ネットワーク 1 7 0 は、公衆回線網などを介して接続されるインターネット、あるいは、LAN ( L a r g e   A r e a   N e t w o r k ) を介して接続されるイントラネットなどの情報の双方向通信が可能な通信網であり、有線無線を問わない。ただし、興行主催者 1 2 0 と電子チケット販売者 1 3 0 と電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 との接続は、情報の秘密性を考慮して、閉鎖的なネットワーク 1 7 0、例えば専用線などを用いることが好ましい。これに対して、電子チケット販売者 1 3 0 の販売ポータルサイトと顧客 1 4 0 との間、イベント会場 1 6 0 と電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 との間は、公衆回線網などのネットワーク 1 7 0 を介して接続することが可能である。

## 【 0 1 0 6 】

なお、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム 1 0 0 においては、電子チケット情報の流通は、ネットワーク 1 7 0 を介して行われているが、本発明はかかる例に限定されないことは言うまでもない。例えば、電子チケット情報に関連する各種マスタを、FDなどの記憶媒体に記憶し、オフラインで流通させることも可能である。

## 【 0 1 0 7 】

以上本実施の形態にかかる電子チケットの管理システムの構成要素について説明した。次に、上記構成になる電子チケット管理システム 1 0 0 の実際の運用例について具体的に説明する。

## 【 0 1 0 8 】

## ( 3 ) 電子チケット管理システム 1 0 0 の機能フロー

## (3-1) マスタ登録処理フロー1200

まず本実施の形態にかかる電子チケット管理システム100は、主に興行主催者120と電子チケットプラットフォームセンタ110との間における配券システムとして利用することが可能である。この配券システムにおいては、興行主催者120からの入力に基づいて、配券情報作成するために必要な各種マスタ管理、並びに電子チケット販売者130の仕入れ入力処理に関する処理ブロックが提供される。

## 【0109】

次に、図12を参照しながら、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム100の各種マスタ登録フロー1200について説明する。

## 【0110】

興行主催者120は、イベントを企画し、その公演詳細を確定する(S1201)。公演の詳細には、出演アーティスト名、公演名、会場名、開場時間、開演時間、座席番号、興行主催者名、電子チケット販売者名、問い合わせ先などの情報が含まれる。興行主催者120は、公演詳細が確定すると、公演会場に対して会場予約を行う(S1202)。

## 【0111】

次いで、興行主催者120は、配券情報を確定するために、各種マスタ登録を行う。ここで登録されるマスタには、例えば電子チケット販売者マスタ登録S1203、座席マスタ登録S1204、会場マスタ登録S1205などがある。これらの入力情報は、電子チケットプラットフォームセンタ110の電子チケット販売者マスタS1206、座席マスタS1207、会場マスタS1208などにインポートされ管理される。これとは別に、電子チケットプラットフォームセンタ110においては、興行主催者120のマスタ登録S1209を興行主催者マスタS1210に対して行う。

## 【0112】

このようにして、イベントに関する基本情報のマスタ完了した後、興行主催者120は席割処理を行う(S1211)。興行主催者120は、企画したイベントの電子チケットの販売を扱う電子チケット販売者(ファンクラブ)130を決

定するとともに、各電子チケット販売者 1 3 0 に販売委託する座席を決定する。その際に、電子チケット販売者 1 3 0 側においても、自己の販売成績を上げるために、配券交渉処理を行う（S 1 2 1 2）。

#### 【 0 1 1 3 】

興行主催者 1 2 0 における席割および電子チケット販売者 1 3 0 における配券交渉が終了すると、興行主催者 1 2 0 は、実際の配券処理を行い（S 1 2 1 3），電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 にイベントマスタ S 1 2 1 4 として登録を行う。そして電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 においては、イベントマスタ S 1 2 1 4 に関連させて電子チケットマスタ S 1 2 1 5 を作成し，以後の処理フローは，この電子チケットマスタ 4 0 8 を基礎データとして行われる。

#### 【 0 1 1 4 】

図 2 1 には，興行主催者 1 2 0 において行われる電子チケット販売者マスタ管理処理画面の一例が示されている。図示のように，電子チケット販売者マスタ管理画面 2 3 0 0 では，電子チケットの販売代行を行う電子チケット販売者あるいはファンクラブの名称 2 3 0 1，電子チケット販売者コード 2 3 0 2，電子チケット販売者の所在地 2 3 0 3 などの登録を行うことが可能である。ここで登録された内容は，電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 に送られ，電子チケット販売者マスタ 4 0 5 に登録される。

#### 【 0 1 1 5 】

図 2 2 には，電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 において行われる興行主催者マスタ管理処理画面の一例が示されている。図示のように，興行主催者マスタ管理画面 2 4 0 0 では，イベントの企画を行う興行主催者 1 2 0 の名称，興行主催者 1 2 0 のコード，所在地などの登録を行うことを可能である。ここで登録された内容は，電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 の興行主催者マスタ 4 0 1 に登録される。

#### 【 0 1 1 6 】

図 2 3 には，会場マスタ管理処理画面の一例が示されている。興行主催者 1 2 0 は，公演会場が決定すると，会場アクセス情報，座席位置，入場ゲートなどの

リンクを管理する会場マスタ 4 0 3 が登録される。図示のように、会場マスタ管理画面 2 5 0 0 においては、会場名 2 5 0 1、会場コード 2 5 0 2、所在地 2 5 0 3、会場の座席数 2 5 0 4、座席段数 2 5 0 5、座席列数 2 5 0 6 などが登録される。

#### 【0 1 1 7】

登録された会場マスタ 4 0 3 は、図 2 4 に示すように、グラフィカルなイメージ 2 6 0 0 で画面表示される。ここで、同じ会場であっても、球場などのように、イベントの種類によって、座席のレイアウトが大きく異なる場合もある。かかる場合に対応して、会場マスタ 4 0 3 は、同じ会場に対して、複数の座席レイアウトを登録することは可能なように構成されている。

#### 【0 1 1 8】

図 2 5 には、イベントマスタ管理処理画面の一例が示されている。このイベントマスタ管理画面 2 7 0 0 においてはイベントに関する各種情報、例えばアーティスト名 2 7 0 1、公演名 2 7 0 2、会場名 2 7 0 3、公演日時 2 7 0 4 などがイベント情報として登録される。興行主催者 1 2 0 側で入力されたイベントマスタ 4 0 2 は、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 にインポートされ、電子チケットマスタ 4 0 8 と関連付けられてイベントマスタ 4 0 2 として管理される。

#### 【0 1 1 9】

なお、1つの会場で複数の公演を行う場合などには、オペレータが重複入力を行う必要はないように、手順の簡略化が図られている。

#### 【0 1 2 0】

図 2 6 には、座席マスタ管理処理画面の一例が示されている。この座席マスタ管理処理画面 2 8 0 0 においては、後述するように、会場のイメージ図から、GUI 操作で、S 席、A 席などの席種別に範囲が登録されており、座席範囲を指定すれば、その座席や席属種を入力画面に遷移して、席種や席属種の指定ができるように構成されている。

#### 【0 1 2 1】

### (3 - 2) 配券処理システム

次に、図 27～図 29 を参照しながら、上記のように登録された各種マスタに基づいて、会場のイメージ図から、GUI 操作で配券処理を行う背景処理フローについて詳細に説明する。

#### 【0122】

なお、図 27 に示す処理フローは、図 12 に示す処理フローとほぼ同様のものであるが、図 27 においては、配券処理に必要な処理フローが主に示されている。したがって、同一の機能構成を有するブロックについては、同一の符号を付することにより重複説明を省略している。

#### 【0123】

これまでの配券処理は、興行主催者 120 が手作業で行い、公演内容と配券情報、会場の図面情報が別々のタイミングで興行主催者 120 から各電子チケット販売者 130 にファクスなどの手段で送られていた。各電子チケット販売者 130 では、興行主催者 120 から送られてきた図面情報を、電子チケット販売者 130 側で管理するシステムに手入力していた。

#### 【0124】

このような方法では、チケットデータが完成するまでに時間を要する上にデータの入力ミスなどが生じる可能性があり、ダブルブッキングなどの問題が生じることがあった。

#### 【0125】

またこのようなミスを回避するために、配券情報の確認作業が必要であるが、従来配券情報の確認作業は、読み合わせなどの手作業に頼っていた。

#### 【0126】

しかしながら、このような確認方法では、確認作業に負担がかかるうえ、興行主催者 120、電子チケット販売者 130 の双方で確認を行う必要があり二度手間となっていた。

#### 【0127】

この点、本実施の形態による配券システムでは、興行主催者 120、電子チケット販売者 130、席種・席属種の各マスタと会場見取り図にひも付けされた会場の座席情報マスタからイベントマスタ 402 を作成し、興行主催者 120 から

各電子チケット販売者130への興行チケットの割り当て、すなわち配券処理をGUI処理で行うので、処理の簡略化と処理精度の向上を図ることができる。

#### 【0128】

図27に示すように、本実施の形態にかかる配券システムにおいては、興行主催者120は、座席マスタ登録を行い(S1203)、その内容を電子チケットプラットフォームセンタ110にエクスポートし、座席マスタ(S1207)を作成する。興行主催者120は、会場マスタ登録を行い(S1204)、その内容についても、電子チケットプラットフォームセンタ110にエクスポートし、会場マスタ(S1208)を作成する。

#### 【0129】

次いで、興行主催者120と電子チケット販売者130間において、座席マスタS1207および会場マスタS1208に基づいて、席割および配券交渉が行われる(S1205, S1212)。席割および配券交渉の結果、興行主催者120は、配券処理を行い(S1213)、電子チケットプラットフォームセンタ110に対してイベントマスタ(S1214)として登録する。登録されたイベントマスタS1214は、仕入情報として、電子チケット販売者130にエクスポートされ、電子チケット販売者130では、インポートされた仕入情報を、電子チケット販売者用イベントマスタ402に変換して、電子チケット販売の基礎データとして活用することができる。

#### 【0130】

会場マスタ403の作成は、会場のイメージ図からGUI操作により、すなわち、エディタを用いてマウスとキーボードの組み合わせ操作で、簡単に行うことが可能である。

#### 【0131】

図28に配券処理画面の一例を示す。図示の会場イメージ図において、座席情報は、図29に示すような方式のデータとして保持される。すなわち会場イメージ図に示される各座席情報は行列で表示され、対象となる座席位置は、列番号と行番号の組み合わせで認識される。例えば、図29において、網掛け部分の範囲は、B1:F1, A2:G7, B8:F8で表すことができる。



## 【0132】

図28において、座席情報の登録は以下のような手順で行われる。

## 【0133】

オペレータは、図28に示すような会場のイメージ図から、GUI操作で、マウスやキーボードなどを用いて、S席、A席などの席種別と範囲を登録する。次いで、マウスやキーボードなどにより座席範囲を指定すれば、その席種・席属種を入力する画面に遷移し、席種・席属種などをグラフィカルイメージに沿って容易に指定することが可能となる。

## 【0134】

このように会場の座席情報をGUI操作可能に構成することにより、会場の座席情報に席種を付与し、イベントマスタ402を作成する操作もGUI操作により、すなわち、エディタを用いてマウスとキーボードの組み合わせ操作で簡単に行うことができる。図28に示す例では、席種はハッチングの種類を変えることにより視覚的に識別可能なようにしているが、実際の運用においては、席種ごとに表示色を変えるなどして、よりグラフィカルに視覚的に認識が容易なように構成することができる。

## 【0135】

さらに、イベントマスタ402をもとに、各電子チケット販売者130へのチケットの配券を設定する場合にも、GUI操作により、すなわちエディタを用いてマウスとキーボードの組み合わせ操作で、簡単に行うことが可能である。図28に示す例では、各電子チケット販売者130に対するチケットの配券は、区画線により表示されているが、実際の運用においては、電子チケット販売者130ごとに表示色を変えるなどして、よりグラフィカルに視覚的に認識が容易なように構成することができる。

## 【0136】

また配券処理あたっては、各座席単位に細かく席は利用行うように構成することも可能であるが、実際には、イベント参加者は、恋人同士あるいは友人同士で固まった席を希望することが多いことに鑑み、配券処理に当たっても、2枚単位、あるいは3枚単位といったように、自動的に複数枚単位で配券を行うように構

成することが好ましい。

【0137】

なお上記の説明においては、座席の登録処理の場合を例に挙げて説明したが、本システムはかかる場合に限定されず、座席の変更、追加、検索、削除といった処理もGUI操作により、すなわち、エディタを用いてマウスとキーボードの組み合わせ操作で簡単に行うことが可能であることは言うまでもない。

【0138】

なお、本実施の形態にかかる配券操作において、登録とは、各マスタデータをもとに配券マスタを電子チケットプラットフォームセンタ110側に作成する処理をいう。検索とは、登録内容の検索処理をいうが、検索処理は、興行主催者120側からはすべての配券情報の検索表示が可能であるが、チケット電子チケット販売者130からは自社に配券された分のみ検索可能なように構成されている。変更とは、登録内容の変更処理をいうが、配券の変更処理が可能なのは、興行主催者120のみである。削除とは、登録内容の削除処理をいうが、同様に削除処理や可能なのは興行主催者120のみである。印刷とは、表示内容の印字処理をいい、各処理実行者に応じた内容を印字することが可能である。

【0139】

さらに、会場マスタ403や、イベントマスタ402や、配券マスタを、上記のようにアドレス指定が容易な形式で登録しておけば、チケットの配券情報各電子チケット販売者130のデータフォーマットに変換し、誤操作なく容易にエクスポートすることも可能となる。例えば、図27に示す例では、イベントマスタ402は、電子チケットプラットフォームセンタ110から仕入情報として電子チケット販売者130にエクスポートされ、電子チケット販売者130は仕入情報をインポートし、電子チケット販売者130イベントマスタ402を作成する。

【0140】

会場見取り図は、CADなどの製図用アプリケーションソフトを用いて個々に作成することも可能であるが、会場から提供された図面をスキャナー等の画像読み取り装置で読み取り、自動的に座席情報をアドレス指定可能な形式で登録する

ように構成することも可能である。

#### 【0141】

上記実施形態においては、座席情報はセル方式で登録されているが、本発明はかかる例に限定されない。本システムにおいては、座席情報の登録・変更・追加、検索、削除といった操作がGUI操作で行うことが可能なように、座席情報がマウスやキーボード操作によりアドレス指定可能に構成されていればよく、例えばRDBM (Reational Data Base Management) 方式で登録するような構成を作用することも可能である。

#### 【0142】

以上説明したように、本実施の形態にかかる配券システムによれば、配券処理用電子化することで、各電子チケット販売者130でのデータ入力コストが削減できる。また興行主催者120側でデータ入力が一元的に行われるので入力ミスを軽減することができる。同時に、電子チケット販売者130側での配券情報の確認作業の手間を省くことができる。また配券情報各電子チケット販売者130のデータフォーマットに応じて簡単に変換できるので、従来のシステムからの一応も容易に行うことができる。さらに、座席情報の登録・変更・追加、検索、削除といった作業がGUI操作により行うことができるので、配券の操作性を大幅に向上することができる。

#### 【0143】

##### (3-3) 販売状況確認処理3200

図30及び図31には、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム100の販売状況確認処理の一例が示されている。なお、図30は、販売状況確認処理画面3200の一例を示し、図31は出力帳票イメージ3300の一例を示している。

#### 【0144】

本実施の形態にかかる電子チケット管理システム100においては、電子チケット情報及びイベント情報が電子化されているので、各電子チケット販売者130における販売状況の確認なども容易に行うことができる。

#### 【0145】

図30に示す販売状況確認処理画面3200において、空き席情報フレーム3201を選択すれば、図31に示すような空き席情報を会場イメージ化して画面表示したり印刷したりすることができる。なお図31に示す出力帳票イメージ3300では、販売済み座席に対してハッチングは施されており、未販売座席は空白で示されているが、実際の運用にあたっては、販売済み座席と未販売座席とを色分け表示するなどして、よりグラフィカルに識別容易に構成することが好ましい。

#### 【0146】

また、販売状況確認処理画面3200において、電子チケット販売者別売上状況フレーム3202を選択すれば、配券した電子チケット販売者130ごとの販売実績一覧表画面に表示したり印刷したりすることができる。同様にチケット種別販売状況フレーム3203を選択すれば、販売中のチケットごとの販売実績一覧表を画面表示したり印刷したりすることができる。さらに売上日報・月報処理フレーム3204を選択すれば、指定日指定月の公演別興行主催者120別売上実績一覧表を画面に表示したり印刷したりすることができる。

#### 【0147】

#### (3-4) 電子チケット発券システム1500

次に、図13を参照しながら、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム100による発券処理フロー1500について説明する。

#### 【0148】

本システムによる発券処理フロー1500は、2つのルートをも有する。第一のルートは、インターネットなどのネットワーク170を利用した電子チケット発券処理である。第二のルートは、コンビニエンスストアなどに設置されるマルチメディアキオスクなどの店舗端末装置150を利用した電子チケット発券処理である。

#### 【0149】

#### (3-4-1) ネットワーク170による発券処理

まず、ネットワーク170を利用した電子チケット発券処理について説明する。電子チケットの購入を希望する顧客140は、自己のクライアントから、電子チ

ケット販売者130が運営する販売ポータルサイト（S1501）にネットワーク170を介してアクセスする（S1502）。そして、希望するイベントの電子チケット販売状況を確認し、電子チケットの購入要求を販売ポータルサイト（S1501）に送信する。

#### 【0150】

販売ポータルサイト（S1501）においては、電子チケットの販売状況を確認するとともに、電子チケット購入者の代金支払い能力などを与信調査し、電子チケットの購入要求を受け付ける。図32には、クライアント端末に表示されるブラウザ画面の一例が示されている。顧客140は、画面上で、公演名、会場、日時、座席などのイベント情報及び電子チケット情報を確認した後、そのチケットを購入するかどうかを判断する。

#### 【0151】

顧客140が電子チケットの購入処理を行うと、図33に示すような購入確認画面が表示される。また、顧客140が電子チケットの購入処理を行うと、電子チケットプラットフォームセンタ110には、販売された電子チケットに関するイベント情報と情報記憶チップの識別番号が送られ、電子チケットプラットフォームセンタ110において管理されている関連マスタのデータが更新される。

#### 【0152】

なお、本実施の形態にかかる電子チケットの購入処理において特徴的な処理は、購入確認と実際の発券処理との間にタイムラグが設けられている点である。本実施の形態においては、電子チケットの発券処理は、電子チケット情報のダウンロードによって行われるが、図33に示すように、購入確認とダウンロード処理にはタイムラグが設けられている。

#### 【0153】

すなわち、本実施の形態においては、電子チケット情報をダウンロード可能なダウンロードサイトのアドレスは、電子メールなどを利用して、後で電子チケット購入者に通知されるように構成されている（S1502）。

#### 【0154】

チケット購入者は、電子チケットダウンロードサイトのアドレスおよびダウン

ロード日時を電子メールで通知された後、図 3 4 に示すように、指定された日時に電子チケットダウンロードサイト（S 1 5 0 5）にアクセスする（S 1 5 0 4）。そして、電子チケット情報をダウンロードして（S 1 5 0 6）、クライアント端末に接続された情報記憶チップ書き込み装置により、電子チケット情報を情報記憶チップに書き込む。

#### 【0 1 5 5】

電子チケット情報の書き込み処理にあたっては、情報記憶チップの識別番号から情報記憶チップの認証が行われ、情報記憶チップ書き込み装置にセッティングされている情報記憶チップがチケット購入希望者のものであるかどうか確認される。そして、情報記憶チップ書き込み装置にセッティングされている情報記憶チップがチケット購入希望者のものであると確認された後に、会場アクセス情報や公演情報が情報記憶チップに書き込まれ、情報記憶チップは、当該イベントに対する電子チケットとして機能するようになる。

#### 【0 1 5 6】

情報記憶チップ書き込み装置側においては、情報記憶チップにイベント情報が正しく書き込めたかどうかのベリファイ処理が行われる。ベリファイ処理の結果、情報記憶チップにイベント情報が正しく書き込めた場合には、処理完了通知を販売ポータルサイトに返す。

#### 【0 1 5 7】

これに対して、何らかの理由で、情報記憶チップへの書き込みができなかった場合には、リトライ処理または販売サイトでのキャンセル処理を行う旨のメッセージや関連するリンク先が提示されるので、顧客 1 4 0 は、ガイダンスに従い所定の処理を行う。

#### 【0 1 5 8】

このように、購入確認処理と実際の発券処理との間にタイムラグを設けることにより、販売ポータルサイトに対するチケット購入希望者のアクセスが集中することによるトラフィックの渋滞を回避することが可能である。特に、人気アーティストのチケット販売時には、チケット購入希望者のアクセスが集中することがしばしば生じるため、本実施の形態にかかるシステムのように、トラフィックの渋

滞を回避する手段を講ずることが好ましい。また購入確認処理と実際の発券処理との間にタイムラグを設けることにより、チケット購入希望者の与信処理を行うことも可能となり、チケット購入代金を確実に回収することが可能となる。

#### 【0159】

なお、上記実施の形態においては、顧客140による購入処理と電子チケット情報のダウンロード処理との間にタイムラグを設ける構成を示したが、本発明はかかる例に限定されず、リアルタイムでダウンロード可能なように構成することも可能であることはいうまでもない。

#### 【0160】

##### (3-4-2) 店舗端末装置150による発券処理

発券処理のもう一つのルートは、コンビニエンスストアに設置されるマルチメディアキioskやプレイガイドなどに設置される店舗端末装置150などにおいて、顧客140が電子チケットを直接購入するものである(S1507)。この場合には、顧客140が、店舗端末装置150の表示画面において、購入希望チケットの販売状況を確認しながら、リアルタイムで電子チケット購入することができる。

#### 【0161】

店舗端末装置150は、情報記憶チップに電子チケット情報を書き込むための権限を付与されており、顧客140は、電子チケット購入代金の支払いと交換で、電子チケット情報を情報記憶チップに直接書き込むことが可能である。店舗端末装置150は、電子チケットの発券処理後、書き込みを行った情報記憶チップの識別番号および電子チケット情報を電子チケット販売者130の販売ポータルあるいは電子チケットプラットフォームセンタ110に通知する。

#### 【0162】

このように、情報記憶チップ読み出し装置および情報記憶チップ書き出し装置を備えた店舗端末装置150を用意することにより、自己のクライアント端末に上記情報記憶チップ読み出し装置および情報記憶チップ書き出し装置が設けられていないような場合であっても、電子チケットの利用が可能となる。

#### 【0163】

### (3-5) 電子チケット変券システム

次に、図14を参照しながら、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム100による返券処理フロー1600について説明する。実際には、興行主催者120から電子チケット販売者130に配券されたすべての電子チケットが完売されない場合もあり、このような場合には、返券処理を行うことが必要である。

#### 【0164】

電子チケット販売者130側において、返券要求があると(S1601)、興行主催者120側では、その返券を受け取るかどうかを判断し、返券を受け取る場合には(S1602)、電子チケットプラットフォームセンタ110において管理されているイベントマスタ402も更新する。そして、興行主催者120は、返券された電子チケットを再配券し(S1603)、電子チケットプラットフォームセンタ110のイベントマスタ402もそれに応じて更新する。最配券された電子チケットを仕入れた(S1604)電子チケット販売者130は、それに応じて、電子チケット販売者用イベントマスタの内容を更新する(S1605)。

#### 【0165】

図28に示す仕入れ入力処理画面において、一括返券(返券処理)フレーム3403を選択すると、個別返券処理と同様に、GUI画面において売れ残ったチケット確認しつつ、一括で返券することが可能である。

#### 【0166】

### (3-6) 電子チケット分配システム1700

図15には、電子チケットを購入した顧客140が享受することが可能な各種サービスが示されている。

#### 【0167】

電子チケット購入者は、販売ポータルサイト(S1701)にインターネットなどを介してアクセスすることにより、電子チケットに関する情報、例えばは公演情報や座席情報など(S1704)を確認することができる(S1702)。電子チケット購入者は、プレイガイドの店舗端末装置150やコンビニエンス



トアのマルチメディアキオスク（S1703）においても、電子チケットに関する情報を確認することができる（S1702）。

【0168】

また場合によっては、電子チケット購入者は、情報記憶チップに記憶されたデジタル情報ではなく、紙チケットに具体的に表示されたアナログ情報を希望する場合もある。このような場合には、情報記憶チップに記憶された電子チケット情報を紙チケットに変換し（S1705）、紙チケットを発行することも可能である（S1706）。このように、電子チケット購入者が電子チケットを紙チケットに変換したような場合、情報記憶チップに記憶された電子チケット情報を使用不能にするとともに、電子チケット販売者130において紙チケット変換履歴を作成し（S1707）、そのログを販売ジャーナル406に記憶する（S1708）ように構成することも可能である。

【0169】

また、現実には、電子チケット購入者と入場者が一対一対応しない場合も決して少なくない。例えば、電子チケット購入者が複数枚の電子チケットを購入し、それらの電子チケットを他のイベント参加希望者に分配したい場合がある。

【0170】

ところが、従来の電子チケットを利用した興行システムの場合、一つの情報記憶チップに複数の電子チケット情報を格納した場合に、記録された権利情報を安全に他人に分配する方法は提案されていなかった。そのような場合には、情報記憶チップに記憶された電子チケットの枚数に合わせた人数が入口などで予め待ち合わせを行い、同時に入場する以外に方法はなかった。

【0171】

また、一つの情報記憶チップに一つの電子チケット情報しか格納できない方法を採用した場合には、隣接する座席の電子チケットを一人の購入者が購入し、それらを事前に配達などの手段を用いて他の人に分配する必要がある、配達時のトラブルなども懸念される上、迅速かつ確実な分配手段がなかった。

【0172】

この点、本実施の形態にかかる電子チケットの分配方法によれば、一つの情報

記憶チップに複数の電子チケット情報を格納した場合であっても、安全かつ確実に、他の情報記憶チップに電子チケット情報を分配することが可能である（S1709，S1710）。以下に、電子チケットの分配方法について詳細に説明する。

#### 【0173】

なお、電子チケットの分配方法についても、先に説明した電子チケットの発券方法と同様に、インターネットなどのネットワーク170を利用した分配方法と、プレイガイドやコンビニエンスストアなどに設置されるマルチメディアキオスクを利用した分配方法との二つのルートを採用することが可能である。

#### 【0174】

##### （3-6-1） ネットワーク170による分配方法

まず、図36～図38を参照しながら、ある情報記憶チップに記憶された電子チケット情報をネットワーク170を利用して他の情報記憶チップに移動させる電子チケット分配方法について説明する。

#### 【0175】

本実施の形態によれば、情報記憶チップに記憶された複数の電子チケット情報をインターネットなどのネットワーク170を介して、クライアント端末に接続されている情報記憶チップ読み出し／書き出し装置により他の情報記憶チップに分配することが可能である。

#### 【0176】

なお、セキュリティ確保のため、情報記憶チップ内に格納されている電子チケット情報は、チケット購入時に、情報記憶チップ内に格納されている情報記憶チップ固有の識別番号と暗号アルゴリズムを用いてあらかじめ暗号化され、電子チケットプラットフォームセンタ110において、電子チケット情報マスタとして保持されていることは好ましい。

#### 【0177】

このようにして購入時に暗号化された電子チケット情報は、本実施の形態によれば、固有の識別番号により識別される特定の情報記憶チップに対してのみダウンロードが可能となる。

## 【0178】

実際に分配を行う場合には、分配元クライアントが電子チケットプラットフォームセンタ110にログインし、分配先の情報記憶チップの固有識別番号を電子チケットプラットフォームセンタ110に通知する。電子チケットプラットフォームセンタ110では、予め保持している情報に基づき、すでにダウンロードされた電子チケット情報と情報記憶チップ内に格納された電子チケット情報とを参照し、分配元情報記憶チップから電子チケット情報を削除するとともに、電子チケットプラットフォームセンタ110内の電子チケット情報に対して、ダウンロード等の手段により購入手続きなしに分配可能な電子チケット情報として分配指定先情報記憶チップの識別番号により電子チケット情報を再暗号化する。

## 【0179】

このように電子チケットプラットフォームセンタ110内において処理を行うことにより、分配先クライアントを介してログインを行うことにより、分配指定先の情報記憶チップに対してのみ、電子チケット情報のダウンロードが可能となり、電子チケットの分配作業を行うことができる。

## 【0180】

このように、本実施の形態によれば、分配元情報記憶チップによる分配指定作業（分配元情報記憶チップ内の電子チケット情報の削除処理を含む）と、分配先情報記憶チップに対する電子チケット情報の書き込み作業を同時に行う必要がなく、購入者の都合に合わせて円滑に電子チケット情報の分配作業を行うことが可能となる。

## 【0181】

なお、分配サービスの対象となった電子チケット情報および分配元情報記憶チップおよび分配先情報記憶チップの識別番号は、電子チケットプラットフォームセンタ110内の電子チケット情報マスタなどにおいて、興行清算が終了するまで履歴管理が行われ、トラブルなどが生じた際に参照することが可能である。

## 【0182】

次に、図36および図37を参照しながら、本実施の形態にかかる電子チケット分配方法の処理フローについて説明する。

## 【0183】

まず、図36を参照しながら、分配元電子チケット情報を格納した情報記憶チップを所持している顧客140クライアントと電子チケットプラットフォームセンタ110との間の情報の流通について説明する。

## 【0184】

複数の電子チケット情報を購入し、それらの複数の電子チケット情報を一つの情報記憶チップに格納した顧客140が、複数の電子チケット情報のうちのいくつかを他の情報記憶チップに記憶したい場合には、まず、電子チケットプラットフォームセンタ110に所定の識別番号とパスワードによりログインする（S4001）。電子チケットプラットフォームセンタ110では、顧客140のログインに対する認証を行う（S4002）。

## 【0185】

認証を受けた後、分配元の顧客140は、クライアントに接続された情報記憶チップ読み出し装置により、情報記憶チップに記憶された電子チケット情報やイベント情報の参照を行う（S4003）。そして、分配を行う電子チケットの公演名や分配枚数などを指定して、分配情報を選択する（S4004）。さらに、分配先の情報記憶チップの識別番号の指定や、分配先の情報記憶チップへの電子チケット情報の書き込みを有効にするためのパスワードなどの指定を行う（S4005）。

## 【0186】

以上のような作業を行うと、例えば情報記憶チップが非接触型のICカードである場合には、「カードをかざしてください」といったような指示が表示され（S4006）、分配元の顧客140が情報記憶チップ読み出し装置に情報記憶チップが実装されたICカードをかざすと（S4007）、その内容が情報記憶チップ読み出し装置により読み出され、電子チケットプラットフォームセンタ110に内容が送信される（S4008）。

## 【0187】

電子チケットプラットフォームセンタ110では、読み出した電子チケット情報を電子チケットプラットフォームセンタ110内に保持しているマスタ、例え

ば電子チケット情報マスタやイベントマスタ（S4009）に格納されている対応情報との照合を行う（S4010）。

#### 【0188】

照合の結果、電子チケット情報の認証が確認されると、分配指定情報のカード内削除処理を実行する（S4011）。その結果、分配元情報記憶チップに格納されている分配対象電子チケット情報が削除あるいは無効設定がなされる（S4012）。さらに、電子チケットプラットフォームセンタ110内に格納されているマスタの更新作業を行う。具体的には、電子チケットプラットフォームセンタ110内のマスタに、分配元情報記憶チップの識別番号で暗号化され登録されている分配指定情報を復号する（S4013）。そして、新たに分配先情報記憶チップの識別番号で暗号化し、電子チケットプラットフォームセンタ110内に格納されているマスタに登録する（S4015）。その後、完了通知が分配元情報記憶チップに関連する顧客140クライアントに送信され、一連の作業が終了する（S4015）。

#### 【0189】

次に、図37を参照しながら、電子チケット情報の分配を受けるために、電子チケットプラットフォームセンタ110と分配先顧客140との間で行われる情報の流通に関するフローについて説明する。

#### 【0190】

なお、電子チケット情報の分配を受けるために必要なパスワードに関しては、分配元の顧客140から分配先の顧客140に対して、予め電子メールなどの手段を介して送信されているものとする。

#### 【0191】

電子チケット情報の分配を受けようとする分配先の顧客140は、少なくとも情報記憶チップへの情報書き込み機能を備えたクライアント端末を介して、電子チケットプラットフォームセンタ110に所定の識別番号とパスワードによりログインする（S4101）。電子チケットプラットフォームセンタ110では、ログインが正規のものであるか認証を行う（S4102）。

#### 【0192】

ログインが認証されると、分配先顧客 1 4 0 では、自己のクライアント端末においてイベント情報を参照し（S 4 1 0 3）、分配を受けようとする電子チケット情報を指定する（S 4 1 0 4）。すると、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 側からパスワードの入力が求められるので、図 3 6 に示すフローにおいて、分配元顧客 1 4 0 が分配対象の電子チケットを指定した際に設定した分配用パスワードを入力する（S 4 1 0 6）。

#### 【0 1 9 3】

電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 では、入力された分配用パスワードの認証を行う（S 4 1 0 6）。認証の結果、電子チケット情報を分配することが認められると、例えば情報記憶チップが非接触型の IC カードである場合には、「カードをかざしてください」といったような指示が表示される（S 4 1 0 7）。分配先の顧客 1 4 0 が情報記憶チップ書き込み装置に情報記憶チップが実装された IC カードをかざすと（S 4 1 0 8）、その IC カード内の情報記憶チップに指定された電子チケット情報やその内容が電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 からダウンロードされ、情報記憶チップ書き込み装置により書き込まれる（S 4 1 0 9）。その後、完了通知が分配先情報記憶チップに関連する顧客 1 4 0 クライアントに送信され、一連の作業が終了する（S 4 1 1 0）。

#### 【0 1 9 4】

図 3 8 には、本実施の形態にかかる電子チケット分配方法において適用可能な暗号化／符号化方法の一例が示されている。図示のように、電子チケット情報あるいはイベント情報（S 4 2 0 1）は、各情報記憶チップ固有の識別番号と暗号アルゴリズムを用いて暗号化され（S 4 2 0 2）、暗号情報として、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 において保持されている（S 4 2 0 3）。

#### 【0 1 9 5】

暗号化された電子チケット情報あるいはイベント情報（S 4 2 0 4）を利用する場合には、暗号化時と同様に、各情報記憶チップ固有の識別番号と復号アルゴリズムを用いて暗号化され暗号情報を復号化することにより（S 4 2 0 5）、本来の電子チケット情報あるいはイベント情報として利用することができる（S 4 2 0 6）。

## 【0196】

なお、図38に示す暗号化方法は、本実施の形態にかかる電子チケット分配方法に適用可能な一例に過ぎず、分配作業のセキュリティ保護のために、他の暗号化手段を用いてもかまわないことはいうまでもない。さらに、暗号アルゴリズムを利用せずに、認証用鍵技術を用いることにより、セキュリティ保護を図る構成を採用すること可能である。

## 【0197】

## (3-6-2) 店舗端末装置150による分配方法

次に、図39および図40を参照しながら、ある情報記憶チップに記憶された電子チケット情報を店舗端末装置150を利用して他の情報記憶チップに移動させる電子チケット分配方法について説明する。

## 【0198】

本実施の形態によれば、情報記憶チップ内に格納された複数の電子チケット情報を、プレイガイドやコンビニエンスストアなどに設置されているマルチメディアキオスクのような店舗端末装置150により、分配元の本人と分配先の本人同士が実際に同一現場においてほぼ同時に動作を行う分配行為により信憑性を保証し分配を行う。

## 【0199】

本実施の形態にかかる分配方法の概略を説明すれば、以下のようである。すなわち、店舗端末装置150により、分配元の情報記憶チップ内の情報を読み出して、画面表示し、分配対象である情報を選択させ、その情報を店舗端末装置150内に取り込むとともに、分配元の情報記憶チップ内に格納された情報を無効設定し、その後、分配先の情報記憶チップに対して分配対象である情報を書き込むのである。

## 【0200】

分配元の情報記憶チップに書き込まれている分配対象である情報の無効設定および分配先の情報記憶チップに対する分配対象である情報の書き込み動作は、コンピュータのような汎用機械ではなく、独自のアクセスキーを備えた専用機械により行われるので、高いセキュリティを確保することができる。

## 【 0 2 0 1 】

分配先の情報記憶チップの固有識別番号は、ログとして店舗端末装置 1 5 0 内に蓄えられており、リアルタイムにあるいはあるタイミングで、オンラインまたはオフラインで電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 に送られ、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 の関連するマスタに登録されて管理される。このように、電子チケットの分配履歴は、電子チケットプラットフォームにおいて集中的に管理されているので、従来不可能であって、分配後の権利情報の信憑性についても分配履歴を参照することにより、容易に確認することができる。

## 【 0 2 0 2 】

なお、分配サービスの対象となった電子チケット情報および分配元情報記憶チップおよび分配先情報記憶チップの識別番号は、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 内の電子チケット情報マスタなどにおいて、興行清算が終了するまで履歴管理が行われ、トラブルなどが生じた際に参照することが可能である。

## 【 0 2 0 3 】

本実施の形態によれば、同一の店舗端末装置 1 5 0 の前で、分配元の情報記憶チップの携行者と、分配先の情報記憶チップの携行者とが、同時に分配行為を行うことにより、分配行為の信憑性を保証しようとするものである。しかしながら、場合によっては、分配先の情報記憶チップの記憶容量が不十分であり、その場では分配行為を完了させられないような事態も発生し得る。

## 【 0 2 0 4 】

そのような場合であっても、本実施の形態によれば、店舗端末装置 1 5 0 から送られた分配履歴が電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 において集中的に管理されているので、新しい情報記憶チップを入手した別のタイミングで、その分配履歴が中断した個所から、分配行為を行うことが可能である。

## 【 0 2 0 5 】

また分配処理が中断した場合には、分配元の情報記憶チップに分配対象である電子チケット情報を戻す、すなわち、分配元の情報記憶チップに記憶された分配対象の電子チケット情報を有効化するように構成することも可能であることはいうまでもない。



## 【0206】

次に、図39および図40を参照しながら、本実施の形態にかかる電子チケット分配方法の処理フローについて説明する。

## 【0207】

なお、図39は、分配元の情報記憶チップを携行する分配元顧客140と、分配先の情報記憶チップを携行する分配先顧客140と、店舗端末装置150との間における情報の流通状態および処理状態を示す処理フローであり、図40は、店舗端末装置150と電子チケットプラットフォームセンタ110との間の情報の流通状態および処理状態を示す処理フローである。

## 【0208】

図39において、分配元の情報記憶チップを携行する分配元顧客140と分配先の情報記憶チップを携行する分配先顧客140とは、一緒にコンビニエンスストアなどに設置されているマルチメディアキオスクなどの店舗端末装置150にアクセスする(S4301)。なお、ここでは分配元顧客140と分配先顧客140とは別人であるとして処理フローの説明を行うが、分配元の情報記憶チップを携行する顧客140と分配先の情報記憶チップを携行する顧客140とが同一人物であっても構わないことは言うまでもない。

## 【0209】

次いで、分配元顧客140または分配先顧客140は、店舗端末装置150のアプリケーションを選択し(S4302)、その中からチケット分配アプリケーションを起動する(S4303)。すると、例えば、「カードをさらしてください」というようなメッセージが表示されるので(S4304)、まず分配元の電子チケット情報が格納されている情報記憶チップが実装されたICカード(S4305)などを、店舗端末装置150の情報記憶チップ読み出し装置にさす。

## 【0210】

店舗端末装置150は、情報記憶チップの中身を読み出し、情報記憶チップの認証を行う(S4306)。認証作業が成功すると、情報記憶チップ内の情報が読み込まれ(S4307)、必要な情報が画面表示される。読み込まれた内容は店舗端末装置150内の記憶装置内に一時的保存される(S4308)。

## 【 0 2 1 1 】

分配元情報記憶チップの携行者は、画面表示された内容に基づいて、分配対象である電子チケット情報を選択する（S 4 3 0 9）。店舗端末装置 1 5 0 は、選択内容が正しいかどうかを分配元情報記憶チップの携行者に対して確認した後に、まず、分配元情報記憶チップに記憶された分配対象である電子チケット情報を無効に設定する。

## 【 0 2 1 2 】

次いで、分配先の情報記憶チップが実装された I C カード（S 4 3 1 1）が準備され、分配元の情報記憶チップが実装された I C カード（S 4 3 0 5）と差し替えが行われる（S 4 3 1 2）。情報記憶チップが非接触型 I C カードとして構成されている場合には、店舗端末装置 1 5 0 に設けられた情報記憶チップ読み出し装置に対して、I C カードがさらされて、その内容が読み出される（S 4 3 1 3）。

## 【 0 2 1 3 】

店舗端末装置 1 5 0 では、まず、分配先情報記憶チップの認証を行う（S 4 3 1 4）。認証に成功すると、分配先情報記憶チップ内の情報が読み出され、空きエリアが確認される（S 4 3 1 5）。

## 【 0 2 1 4 】

ここで、分配先情報記憶チップ内に、分配対象である電子チケット情報を書き込むために必要な空きエリアが確保できない場合には、分配作業が中断され、分配先情報記憶チップの差し替えのガイダンスが表示される。ここで必要な空きエリアを有する新しい分配先情報記憶チップが用意されれば、分配作業は再開される。これに対して、必要な空きエリアを有する新しい分配先情報記憶チップが用意できない場合には、分配作業は中止される。

## 【 0 2 1 5 】

ここまでの分配作業のログは、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 に保持されているので、分配先情報記憶チップの携行者は、準備が整ったときに、店舗端末装置 1 5 0 から電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 から作業履歴を読み出して、分配作業を再開することができる。

## 【0216】

あるいは、分配作業が中止した場合には、店舗端末装置150に一時的に格納された電子チケット情報を分配元情報記憶チップに書き戻すように構成することが可能である。かかる場合には、十分な空き容量を有する分配先情報記憶チップの準備が整ったときに、再度分配作業を行うことになる。

## 【0217】

このように情報記憶チップ内の情報が確認され（S4315）、分配対象である電子チケット情報を書き込むために十分な空き容量が確認できた場合には、店舗端末装置150に一時的に格納された電子チケット情報が、情報記憶チップ内に書き込まれる（S4316）。一連の作業が完了すると、店舗端末装置150内に分配作業のログが保存される（S4317）。

## 【0218】

店舗端末装置150に格納された分配作業のログは、図40に示すように、適当なタイミングで、電子チケットプラットフォームセンタ110に送信され（S4401）、電子チケットプラットフォームセンタ110の関連するマスタ内に登録され保持される。なお、ログの送信は、リアルタイムで行うように構成することも可能であるし、あるいは適当なタイミングでオンラインまたはオフラインで行うことも可能である。そして、電子チケットプラットフォームセンタ110に格納された分配作業のログは、少なくともイベントの清算が終了するまで保持される。

## 【0219】

なお、上記実施形態においては、店舗端末装置150により、分配元情報記憶チップから分配先情報記憶チップに電子チケット情報を移動させる方法を示したが、本発明はかかる例に限定されない。例えば、店舗端末装置150により、分配元情報記憶チップから分配対象である電子チケット情報を読み出して、紙チケットとして再発行する構成を採用することも可能である。

## 【0220】

以上説明したように、本実施の形態にかかる電子チケット分配方法によれば、一つの情報記憶チップに複数の電子チケット情報を書き込んだ場合であっても、

その内容を他の情報記憶チップに簡単に分配することが可能である。

【 0 2 2 1 】

また、本実施の形態にかかる電子チケット分配方法によれば、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 において履歴管理が行われるので、万が一のトラブルが生じたような場合であっても、履歴を追跡することにより、原因を容易につきとめることができる。

【 0 2 2 2 】

さらに、ダフ屋などの不正な電子チケットの分配を防止することができる。さらに、分配先の情報記憶チップを相手方に郵送する場合などに生じるおそれがある配送トラブルを回避することが可能である。さらに、チケット配送のタイムラグを考慮しなくてもいいので、開演直前までチケットを分配することが可能である。

【 0 2 2 3 】

以上、本発明にかかるチケット分配方法の好適な実施形態について説明したが、本発明は上記実施形態に限定されない。例えば、インターネットを利用したチケット分配方法は、ある情報記憶チップに記憶された電子チケット情報を他の情報記憶チップに移動させるあらゆるフェーズに適用可能である。すなわち、一つの情報記憶チップに記憶された複数の電子チケット情報の一部を他の情報記憶チップに移動させる分配行に限定されず、一つの情報記憶チップに記憶された一または複数の電子チケット情報のすべてを他の情報記憶チップに移動させる譲渡行為に対しても適用可能であることはいうまでもない。

【 0 2 2 4 】

さらに、本実施の形態にかかるチケット分配方法は、電子チケット情報に限定されず、情報記憶チップに記憶されたあらゆる情報の分配や譲渡に適用することが可能である。

【 0 2 2 5 】

( 3 - 7 ) 販売ジャーナル処理フロー 1 8 0 0

本実施の形態にかかる電子チケット管理システム 1 0 0 においては、配券処理後に、電子チケット情報はさまざまなフェーズにおいてダイナミックに変化して

いく。すなわち、電子チケット販売者 1 3 0 は、発券処理を通じて、顧客 1 4 0 に対して電子チケット情報を販売することにより、電子チケット情報の所有権を顧客 1 4 0 に移転させる。また、顧客 1 4 0 同士においても、分配処理や譲渡処理を通じて、電子チケット情報の所有権を移転させていく。このように、さまざまなフェーズにおいて変化していく電子チケット情報を、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 において、統一的に管理していくシステムが、販売ジャーナル処理フロー 1 8 0 0 である。

#### 【 0 2 2 6 】

図 1 6 には、販売ジャーナル処理フローの一例が示されている。例えば、電子チケット販売者 1 3 0 における発券処理は、販売状況報告 S 1 8 0 1 として、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 に報告され販売ジャーナルマスタ S 1 8 0 2 に適宜蓄積されていく。同様に、電子チケット販売者 1 3 0 の販売ポータルサイト S 1 8 0 3 や店舗端末装置 S 1 8 0 4 を介して行われた電子チケット情報の分配処理や譲渡処理 S 1 8 0 5 は、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 に報告されて、同様に販売ジャーナルマスタ S 1 8 0 6 に適宜蓄積されていく。

#### 【 0 2 2 7 】

興行主催者 1 2 0 は、必要に応じて販売ジャーナル 4 0 6 を参照することにより、販売状況を確認することができる（S 1 8 0 5）。

#### 【 0 2 2 8 】

以上のように、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム 1 0 0 によれば、電子チケット情報の移動に関する情報は、常に電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 に集中され、販売ジャーナル 4 0 6 として蓄積され管理されているので、電子チケットの一元的管理が可能である。

#### 【 0 2 2 9 】

なお、イベントの当日などに関しては、販売ジャーナル 4 0 6 をリアルタイムで更新できないような場合も想定されるが、このような場合には、会場に設置されるゲート端末装置 1 8 0 などから、イベント終了後に、販売状況等の報告を受けて、販売ジャーナル 4 0 6 を更新させることが可能である。

【0230】

(3-8) ゲート管理システム

次に、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム100における電子チケットのイベント会場160での利用状況について説明する。すなわち、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム100は、イベント会場160の入口に設置されるゲート管理システムとしても適用可能である。

【0231】

従来、イベント会場160では、入場に際して、紙チケットの半券を切り取る「もぎり」と称される作業員が、入場の可否を目視で判断していた。そのため、偽造チケットが横行し、大規模な公演ではもぎりのための人件費も無視できないものであった。

【0232】

もぎりにより切り取られた半券は、公演終了後に、入場者数を把握するために集計されている。しかしながら、半券の収集では、集計に時間がかかる上に、正確さを欠いていた。また、半券の収集では、実際の入場者の動向を把握することが困難であり、集計はアバウトなものとならざるを得なかった。

【0233】

また、障害者への座席案内などは、実際には専任の担当者が必要であるため、特定の公演や、専任の担当者が常任する会場でしか対応することができなかった。したがって、障害のある顧客140は、付き添いがいない限り、単独でイベントに参加することが困難であった。

【0234】

しかしながら、本実施の形態にかかるゲート管理システムによれば、上記のような問題点を効果的に解決することが可能である。

【0235】

本実施の形態にかかるゲート管理システムの概要は、次のとおりである。

【0236】

講演会場に設置されたゲート端末装置180に、電子チケットプラットフォームセンタ110からイベント情報を予めダウンロードしておく。このゲート端末

装置 1 8 0 により、入場者が携行する非接触型 I C カードなどの情報記憶チップ内に記憶されている電子チケット情報およびイベント情報を読み取り、読み出されたイベント情報が正規のイベント情報である場合に、入場者の入場を許諾する。

#### 【 0 2 3 7 】

同時に、ゲート端末装置 1 8 0 により読み出された電子チケット情報に含まれる携行者情報などから、チケット携行者の属性（例えば、携行者が年配者であるとか、障害者であるとか）を判断し、その属性に応じた対応を行う。

#### 【 0 2 3 8 】

さらに、公演後には入場を許可したカードの情報を分析して、事後のマーケティングに生かすことが可能である。

#### 【 0 2 3 9 】

以下、本実施の形態にかかるゲート管理システムについてさらに詳細に説明する。

#### 【 0 2 4 0 】

図 1 7 に、本実施の形態にかかるゲート管理システムを会場に設置するためのゲート端末設置処理フロー 1 9 0 0 について説明する。

#### 【 0 2 4 1 】

図示のように、まずイベントが開催されるに先立って、会場の設営が行われ（S 1 9 0 1）、その会場にゲート端末装置 1 8 0 が設置される（S 1 9 0 2）。ゲート端末装置 1 8 0 には、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 のイベントマスタ 4 0 2 から公演情報がエクスポートされ導入される（S 1 9 0 3）。公演情報の導入は、オンラインで行っても良いし、オフラインで行っても良い。これにより、本実施の形態にかかるゲート管理システムの適用が可能となる。

#### 【 0 2 4 2 】

なお、上記説明は、イベント会場 1 6 0 にゲート端末が常設されていない場合の実施形態に即したものであるが、イベント会場 1 6 0 にゲート端末が常設されているような場合には、常設ゲート端末装置 1 8 0 に対して、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 のイベントマスタ 4 0 2 から公演情報を転送すること

により（S1904，S1905），本実施の形態にかかるゲート管理システムの適用が可能となる。この場合にも，公演情報の転送は，オンラインで行っても良いし，オフラインで行っても良い。

#### 【0243】

次に，図41～図43を参照しながら，本実施の形態にかかるゲート管理システムにおけるゲート入場処理フローについて説明する。なお，以下の説明においては，電子チケット情報およびイベント情報が格納された情報記憶チップとして非接触型ICカードを用いるものとする。

#### 【0244】

顧客140は，イベント会場160のゲートにおいて，情報記憶チップをゲート端末装置180にかざす（S4501）。ゲート端末装置180は，電子チケットプラットフォームセンタ110から予め獲得してあるイベント情報（S4503）と，情報記憶チップに格納されているイベント情報（S4502）とを比較し（S4503），情報記憶チップに格納されているイベント情報が正規のイベント情報である場合には入場が許可され，例えば青ランプが点灯する（S4504）。これに対して，情報記憶チップに格納されているイベント情報が正規のイベント情報でない場合には入場が拒否され，例えば赤ランプが点灯したり，音声での案内が流されたりする（S4504）。

#### 【0245】

ゲート端末装置180は，入場が許可された情報記憶チップからさらに携行者情報などの電子チケット情報を読み出し，顧客140属性を確認する（S4506）。そして，入場者が健常者などの一般顧客140の場合には，図10に示すように，画面に席番号を表示し，「左手2番ドアからお入りください」などと音声での案内が流される（S4507）。入場者はその案内したがって，イベント会場160内に入場する（S4511）。

#### 【0246】

これに対して，入場者が健常者でない場合には，入場者の属性に応じて異なる案内がなされる。

#### 【0247】



例えば、入場者が車椅子使用者である場合には、車椅子が通過できる通路などが画面上でまたは音声で案内される。また、車椅子使用者が目や耳が不自由でない場合には、健常者の場合と同様に、画面に席番号を表示し、「左手2番ドアからお入りください」などと音声での案内が流される（S4508）。入場者はその案内したがって、イベント会場160内に入場する（S4511）。

## 【0248】

入場者が、目の不自由な方や目の悪い年配の方である場合には、「左手2番ドアからお入りください」などと健常者の場合よりも大きな音声での案内が流される（S4509）。入場者はその案内したがって、イベント会場160内に入場する（S4511）。

## 【0249】

入場者が、耳の不自由な方や耳の遠い年配の方である場合には、健常者の場合よりも大きな文字で、画面上に座席番号や入場ドアが表示される（S4510）。入場者はその案内したがって、イベント会場160内に入場する（S4511）。

## 【0250】

このように、本実施の形態にかかるゲート管理システムにおいては、入場者の属性がリアルタイムで会場スタッフに報告されるので、会場スタッフは、入場者の属性に応じた対応を容易に行うことが可能である。

## 【0251】

図42には、情報記憶チップに記憶されるイベント情報や電子チケット情報などのデータ構造が示されている。図示の例では、公演ID、フロア、席番号、会員番号、顧客140氏名、顧客140属性、生年月日などが情報記憶チップに記憶されている。ゲート端末装置180は、まず、公演IDを読み取り、入場の可否を判断する。そして、座席情報などから、入場者に案内を送る。さらに携行者情報から、顧客140の属性を判断し、顧客140に応じた対応をすること可能である。

## 【0252】

上記のように、ゲート端末装置180には、入場の可否を報告するランプや、

座席情報を画面表示する表示装置や、音声などにより案内する案内装置が設置されている。ゲート端末装置 1 8 0 には、さらに、顧客 1 4 0 の要請に応じて、座席情報などを紙でプリントアウトするためのプリンタなどの出力装置を設けることも可能であることはいうまでもない。

【 0 2 5 3 】

上記実施形態においては、入場の可否を判定するにあたりランプ等の手段を採用しているが、駅改札に設置されているようなフラップ付きの通過ゲートを設け、入場が許可された場合にフラップを開放するような構成を採用することお可能である。

【 0 2 5 4 】

また、情報記憶チップをリライタブルな面を有する携帯装置に実装し、そこに必要な公演情報を印字する方法を採用することも可能である。また、情報記憶チップが、携帯電話や携帯端末装置などの表示機能を有するものに組み込まれている場合には、これらの表示装置に必要な公演情報を表示させるような構成を採用することも可能である。

【 0 2 5 5 】

実際のイベントの運営にあたっては、途中退場などの事態も生じ得る。従来、途中退場者の再入場の可否判断は半券などによって行っていた。しかしながら、本実施の形態にかかるチケット管理システムによれば、入場の際には、情報記憶チップに書き込まれたイベント情報を読み出すだけで、書込み操作を行わないので、再入場時には、最初の入場と同様に、ゲート通過処理を行うことにより、対応することが可能である。

【 0 2 5 6 】

また、ゲート端末装置 1 8 0 以外に、情報記憶チップ内に記憶されたチケット情報などを印字する印字端末や表示端末を会場内に設置して、会場内での混在を緩和する構成を採用することも可能である。かかる公正によれば、特に、トイレ休憩など、一旦、離席後に再着席する場合に、自分の座席を確認することが可能である。

【 0 2 5 7 】

次いで、図 1 8 を参照しながら、本実施の形態にかかるゲート管理システムにおける入場ログの処理フローについて説明する。

#### 【 0 2 5 8 】

まず、正規のイベント情報が格納された情報記憶チップを携行する顧客 1 4 0 が講演会場に入場すると（S 2 0 0 1 ），ゲート端末装置 1 8 0 において入場が許可され、顧客 1 4 0 はゲートを通過する（S 2 0 0 2 ）。ゲート端末装置 1 8 0 において、顧客 1 4 0 のゲート通過に応じて、入場ログが取得される（S 2 0 0 3 ）。入場ログにおいては、単に情報記憶チップに記憶された正規のイベント情報のみならず、携行者情報などを含む電子チケット情報も収集される。

#### 【 0 2 5 9 】

図 4 3 には、入場情報表示処理画面の一例が示されている。

#### 【 0 2 6 0 】

すでに説明したように、ゲート端末装置 1 8 0 において収集された入場ログは適宜会場管理端末に送信され、図 4 3 に示すように、グラフィカルなイメージで画面上に表示される。会場管理者は、画面上で、入場状況をリアルタイムで把握することが可能である。例えば、開演間近になっても、所定数の入場者が得られない場合には、交通手段の事故や天候の不順などのトラブルが想定可能であり、開演時間を遅らせるなどの対応を行うことが可能である。

#### 【 0 2 6 1 】

再び図 1 8 に戻り、ゲート端末装置 1 8 0 において収集された入場ログは、リアルタイムで、あるいは適当なタイミングで、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 に送信され、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 においてログ回収が行われる（S 2 0 0 4 ）。回収されたログは、イベント終了後に分析され、例えば入場者数が集計される（S 2 0 0 5 ）。集計された入場者数は、電子チケット販売者 1 3 0 に適宜送られ、電子チケット販売者 1 3 0 において売上日報や売上月報が作成される（S 2 0 0 6 ）。集計された入場者数は、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 において、入場者数レポートとして集計される（S 2 0 0 7 ）。同様に、入場者数などの情報は、イベント会場 1 6 0 においても集計されており（S 2 0 0 8 ），適宜入場者レポートが作成される（S 2 0 0

9)。そして、興行主催者120は、必要に応じて、イベント会場160や電子チケットプラットフォームセンタ110において作成された入場者レポートを確認することが可能である（S2010）。

#### 【0262】

以上説明したように、本実施の形態にかかるゲート管理システムによれば、会場ゲートにおいて、情報記憶チップに記憶されたイベント情報が正規のイベント情報である否かに基づいて入場の可否を判断しているので、公演開始直前に購入されたチケットの入場判断も即座に行うことができる。これにより、販売機会の損失を最小限に抑えることが可能となる。

#### 【0263】

さらに、会場ゲートでの入場可否の判定は、もぎりなどの作業員の目視に頼るのではなく、ゲート端末装置180が行うので、正確かつ迅速な入場可否の判断が可能となる。その結果、偽造チケットを排除することが可能となる上、もぎりの手間と人件費を節約することができる。

#### 【0264】

また、入場者の属性に応じた案内や表示を行うことにより、スムーズな入場を実現することが可能である。同時に、専任に係員をおくことなく、障害者にとっても入場しやすいバリアフリーのシステムを実現することができる。

#### 【0265】

さらに、ゲート端末装置180において、情報記憶チップに記憶された電子チケット情報をリアルタイムで回収し、集計することが可能なので、会場管理端末において、入場者数の把握や、座席の埋まり具合などについてもリアルタイムで把握することができ、円滑な会場運営を行うことができる。

#### 【0266】

### （3-9） 請求処理フロー

次に、図19を参照しながら、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム100にかかる請求処理フローについて説明する。

#### 【0267】

なお、顧客140が電子チケット購入時に、顧客140と電子チケット販売者

130との間に発生する請求フローについては、従来の請求処理フローと同様に、クレジット決済、電子マネー決済などを適用することが可能なので、ここでは言及するにとどめ詳細説明は省略するものとする。

【0268】

したがって、ここでは、イベントが終了後に、イベント会場160、交渉主催者、電子チケットプラットフォームセンタ110、電子チケット販売者130／ファンクラブ、販売店舗／コンビニエンスストア間において行われる請求処理フローについて主に説明することにする。

【0269】

まず、電子チケット販売者130／ファンクラブと興行主催者120間においては、余ったチケットの返券処理（S2101）と、そのチケットの受け取り処理（S2102）が例えばオンライン処理により行われる。同時に、電子チケット販売者130／ファンクラブからは、最終的な販売状況レポートが発行され（S2102）、興行主催者120は販売状況レポートの確認を行い（S2103）、その後、販売状況レポートに基づいて請求書を発行する（S2104）。

【0270】

電子チケット販売者130／ファンクラブは、発行された請求書に対して販売手数料を相殺した後（S2105）、売上を興行主催者120に対して入金し（S2106）、興行主催者120は入金確認を行うことにより（S2107）、電子チケット販売者130／ファンクラブと興行主催者120間における請求処理フローは完了する。

【0271】

次いで、興行主催者120と電子チケットプラットフォームセンタ110間においては、まず電子チケットプラットフォームセンタ110からシステム使用料の請求が行われ（S2108）、興行主催者120がその請求に対して使用料を入金し（S2109）、電子チケットプラットフォームセンタ110がその入金を確認することにより（S2110）、興行主催者120と電子チケットプラットフォームセンタ110間における請求処理フローは完了する。

【0272】

電子チケット販売者130／ファンクラブと販売店舗／コンビニエンスストア等間においては、まず販売店舗／コンビニエンスストア等から電子チケット販売者130／ファンクラブに対して手数料の請求が行われ（S2111），電子チケット販売者130／ファンクラブがその請求に対して手数料を入金し（S2112），販売店舗／コンビニエンスストア等がその入金を確認することにより（S2113），電子チケット販売者130／ファンクラブと販売店舗／コンビニエンスストア等間における請求処理フローは完了する。

## 【0273】

同様に、電子チケットプラットフォームセンタ110と販売店舗／コンビニエンスストア等間においては、まず販売店舗／コンビニエンスストア等から手数料の請求が電子チケットプラットフォームセンタ110に対して行われ（S2114），電子チケットプラットフォームセンタ110がその請求に対して手数料を入金し（S2115），販売店舗／コンビニエンスストア等がその入金を確認することにより（S2116），電子チケットプラットフォームセンタ110と販売店舗／コンビニエンスストア等間における請求処理フローは完了する。

## 【0274】

同様に、電子チケットプラットフォームセンタ110と電子チケット販売者130／ファンクラブ間においては、まず電子チケットプラットフォームセンタ110からシステム使用料の請求が電子チケット販売者130／ファンクラブに対して行われ（S2117），電子チケット販売者130／ファンクラブがその請求に対して使用料を入金し（S2118），電子チケットプラットフォームセンタ110がその入金を確認することにより（S2119），電子チケットプラットフォームセンタ110と電子チケット販売者130／ファンクラブ間における請求処理フローは完了する。

## 【0275】

最後に、イベント会場160と興行主催者120間においては、まずイベント会場160から会場使用料の請求が興行主催者120に対して行われ（S2120），興行主催者120がその請求に対して使用料を入金し（S2121），イベント会場160がその入金を確認することにより（S2119），イベント会

場 1 6 0 と 興行主催者 1 2 0 間における請求処理フローは完了する。

【 0 2 7 6 】

以上、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム 1 0 0 の運用にあたって発生する請求処理フローの一例について説明したが、システムの構成によってはさまざまな請求処理フローが発生し得ることはいうまでもないが、ここでは言及するにとどめ詳細説明は省略する。

【 0 2 7 7 】

図 3 5 には、請求処理画面の例が示されている。図示のように、電子チケットの発券数に応じて、請求書および明細書を発行する処理が行われる。例えば、請求処理画面において、配券システム利用明細作成フレームを選択すると、興行主催者 1 2 0、電子チケット販売者 1 3 0 それぞれに配券システムの使用状況に応じて明細書が画面表示またはプリントアウトされる。また、ゲート資料明細作成フレームを選択すると、公演ごとに電子チケット販売数に応じたゲート使用料の明細書が表示またはプリントアウトされる。さらに、請求書作成処理フレームを選択すれば、明細書に基づいて、請求書が画面表示またはプリントアウトされる。

【 0 2 7 8 】

( 3 - 1 0 ) 後処理フロー

本実施の形態にかかる電子チケットの管理システムにおいては、電子チケットを仲介としてさまざまフェーズにおいて情報記憶チップの携行者の動向に関する電子化データを収集することが可能である。これらの情報は、後々のマーケティングにとって有益な情報であり、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム 1 0 0 においても、収集されたデータの分析を行う後処理が適宜行われ、マーケティングに活用される。

【 0 2 7 9 】

図 2 0 には、本実施の形態にかかる電子チケットの管理システムに適用可能な後処理フローの一例が示されている。

【 0 2 8 0 】

図示のように、電子チケットを仲介としてさまざまフェーズにおいて情報記憶

チップの携行者の動向に関して発生する情報は電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 に集中する。ここで、入場者データの分析を一例にあげてデータの後処理について説明すると、電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 は、例えばイベント会場 1 6 0 のゲート端末装置 1 8 0 から入場者データを入手する（S 2 2 0 1）。

#### 【 0 2 8 1 】

入場者データは電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0 から電子チケット販売者 1 3 0 / ファンクラブに送られて、さまざまな局面からマーケット分析され（S 2 2 0 2），その結果は会員マスタに登録される（S 2 2 0 3）。そして，分析結果は，例えば興行主催者 1 2 0 にフィードバックされる（S 2 2 0 4）。

#### 【 0 2 8 2 】

興行主催者 1 2 0 は，マーケット分析に基づいて，興行レビューを行い（S 2 2 0 5），次回の興行に生かすことができる（S 2 2 0 6）。そして，次回興行のニュースは，興行主催者 1 2 0 の広報を介して，電子チケット販売者 1 3 0 / ファンクラブに対して最新情報として提供されたり（S 2 2 0 7），顧客 1 4 0 に対して会員情報誌，テレビ，雑誌などを通じて最新情報として提供される（S 2 2 0 8）。

#### 【 0 2 8 3 】

上記実施形態においては，マーケット分析を電子チケット販売者 1 3 0 / ファンクラブが行っているが，マーケット分析は，興行主催者 1 2 0，電子チケットプラットフォームセンタ 1 1 0，その他の第三者機関が行っても良いことはいうまでもない。

#### 【 0 2 8 4 】

以上添付図面を参照しながら，本発明にかかる電子チケット管理システム 1 0 0 等について説明したが，本発明はかかる例に限定されない。当業者であれば，特許請求の範囲に記載された技術的思想の範疇内において，各種の変更例または修正例に想到しうることは明らかであり，それらについても当然に本発明の技術的範囲に記憶するものと了解される。



## 【0285】

特に、上記実施の形態においては、電子チケット管理システム100の運営者を、イベント会場160、興行主催者120、電子チケットプラットフォームセンタ110、電子チケット販売者130／ファンクラブ、販売店舗／コンビニエンスストア等、顧客140と機能的に分離して説明したが、本発明はかかる例に限定されず、各構成要素を組み合わせたり、分離したりして自由にシステムを構成することが可能である。

## 【0286】

例えば、ある電子チケット管理システム100においては、イベント会場160が、興行主催者120と電子チケットプラットフォームセンタ110の機能を兼ねることも可能である。あるいは、別の電子チケット権利システムにおいては、興行主催者120が、電子チケットプラットフォームセンタ110の機能を兼ねることも可能である。さらに、電子チケット販売者130／ファンクラブが、電子チケットプラットフォームセンタ110の機能を兼ねることも可能である。

## 【0287】

さらに、本発明にかかる電子チケット管理システム100は、従来のチケット販売システムと組み合わせて運用することも可能である。例えば、電子チケット管理システム100のうち、配券部分を従来どおり、興行主催者120と電子チケット販売者130との間でマニュアルで行い、発券処理やゲート管理部分のみを電子チケットぶらとフォームセンタにより集中管理するようなシステムを構築することも可能である。

## 【0288】

また、上記実施の形態にかかる電子チケット管理システム100では、情報記憶チップの書き込み装置により電子チケットを作成しているが、すべての端末に情報記憶チップの書き込み装置を実装させることには困難が伴うことが予想される。したがって、かかる場合には、電子チケットの購入者に対して、イベント情報を予め書き込んだ情報記憶チップを配布し、ゲート通過時にのみ、本実施の形態にかかる電子チケット管理システム100を適用するようなシステムを構築することも可能である。

## 【0289】

また、同様に、上記実施の形態にかかる電子チケット管理システム100においては、情報記憶チップ読み出し装置により情報記憶チップに書き込まれたイベント情報を読み出すことにより、イベントの日時や会場などを把握できるように構成しているが、情報記憶チップの読み出し装置などの簡易ビューアーを普及させることにも困難が伴うことが予想される。したがって、かかる場合には、販売ポータルサイトに顧客140がアクセスして、所定の識別番号やパスワードを認証させることにより、所持している電子チケットの座席情報等をダウンロードなどしてプリントアウトできる構成を採用することも可能である。

## 【0290】

また、情報記憶チップに格納できる電子チケット情報の数にも上限があるので、例えば、貸しきり公演のようなイベントの場合には、顧客140が購入した電子チケット情報を電子チケットプラットフォームセンタ110において一時的に預かるようなシステムを構築することも可能である。

## 【0291】

## 【発明の効果】

以上説明したように、本発明にかかるゲート管理システムによれば、会場ゲートにおいて、情報記憶チップに記憶されたイベント情報が正規のイベント情報である否かに基づいて入場の可否を判断しているので、公演開始直前に購入されたチケットの入場判断も即座に行うことができる。これにより、販売機会の損失を最小限に抑えることが可能となる。

## 【0292】

さらに、会場ゲートでの入場可否の判定は、もぎりなどの作業員の目視に頼るのではなく、ゲート端末装置が行うので、正確かつ迅速な入場可否の判断が可能となる。その結果、偽造チケットを排除することが可能となる上、もぎりの手間と人件費を節約することができる。

## 【0293】

また、入場者の属性に応じた案内や表示を行うことにより、スムーズな入場を実現することが可能である。同時に、専任に係員をおくことなく、障害者にとっ

ても入場しやすいバリアフリーのシステムを実現することができる。

【 0 2 9 4 】

さらに、ゲート端末装置において、情報記憶チップに記憶された電子チケット情報をリアルタイムで回収し、集計することが可能なので、会場管理端末において、入場者数の把握や、座席の埋まり具合などについてもリアルタイムで把握することでき、円滑な会場運営を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムの構成の概略を示す図である。

【図 2】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケットプラットフォームセンタの構成を示す図である。

【図 3】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケット発券部の構成を示す図である。

【図 4】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムの情報マスタを示す図である。

【図 5】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な興行主催者装置の構成を示す図である。

【図 6】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な配券処理部の構成を示す図である。

【図 7】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケット販売者の構成を示す図である。

【図 8】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な店舗端末装置の構成を示す図である。

【図 9】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能なゲート端末装置の構成を示す図である。

【図 1 0】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な I C カードの説明図である。

【図 1 1】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な I C カードのデータ構造を示す説明図である。

【図 1 2】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な各種マスタ作成フローを示すフローチャートである。

【図 1 3】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケット発券処理フローを示すフローチャートである。

【図 1 4】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケット返券処理フローを示すフローチャートである。

【図 1 5】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケット分配処理フローを示すフローチャートである。

【図 1 6】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケット販売ジャーナル作成フローを示すフローチャートである。

【図 1 7】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能なゲート端末装置フローを示すフローチャートである。

【図 1 8】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な入場ログ処理フローを示すフローチャートである。

【図 1 9】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な経理処理フローを示すフローチャートである。

【図 2 0】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケット情報の後処理フローを示すフローチャートである。

【図 2 1】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケット販売者マスタ管理処理画面イメージを示す説明図である。

【図 2 2】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な興行主催者マスタ管理処理画面イメージを示す説明図である。

【図 2 3】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な会場マスタ管理処理画面イメージを示す説明図である。

【図 2 4】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な会場イメージ処理画面イメージを示す説明図である。

【図 2 5】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能なイベントマスタ処理画面イメージを示す説明図である。

【図 2 6】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な席種・席族種マスタ管理処理画面イメージを示す説明図である。

【図 2 7】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チ

ケットの配券処理フローを示すフローチャートである。

【図 2 8】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケットの配券処理画面イメージを示す説明図である。

【図 2 9】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能なセル化された座席情報の説明図である。

【図 3 0】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な販売状況確認処理画面イメージを示す説明図である。

【図 3 1】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な出力帳票イメージ処理画面イメージを示す説明図である。

【図 3 2】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な販売ポータルサイトの画面イメージを示す説明図である。

【図 3 3】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な販売確認処理画面イメージを示す説明図である。

【図 3 4】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な公演情報ダウンロード処理画面イメージを示す説明図である。

【図 3 5】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な請求処理画面イメージを示す説明図である。

【図 3 6】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケットの分配処理フローを示すフローチャートである。

【図 3 7】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケットの分配処理フローを示すフローチャートである。

【図 3 8】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケットの分配処理フローを示すフローチャートである。

【図 3 9】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケットの分配処理フローを示すフローチャートである。

【図 4 0】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な電子チケットの分配処理フローを示すフローチャートである。

【図 4 1】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能なゲート入場処理フローを示すフローチャートである。

【図 4 2】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な読み出された電子チケットのデータの構造を示す図である。

【図 4 3】

本発明の実施の一形態にかかる電子チケット管理システムに適用可能な入場情報表示処理画面を示す説明図である。

【符号の説明】

1 0 0	電子チケット管理システム
1 1 0	電子チケットプラットフォームセンタ
1 2 0	興行主催者
1 3 0	電子チケット販売者
1 4 0	顧客
1 5 0	店舗端末装置
1 6 0	イベント会場
1 7 0	ネットワーク

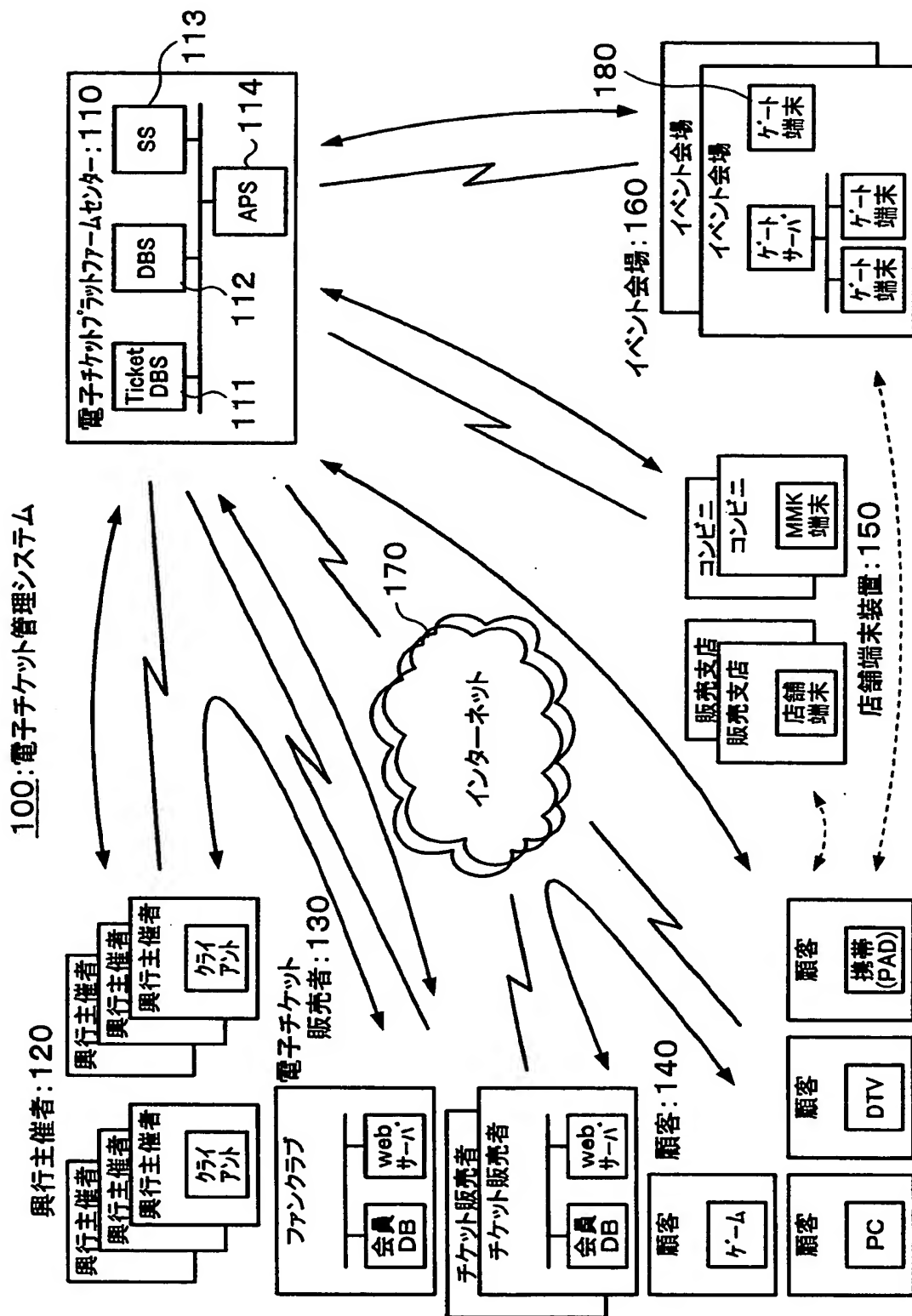
1 8 0	ゲート端末装置
2 0 1	情報登録部
2 0 2	電子チケット発券部
2 0 3	販売ジャーナル管理部
2 0 4	認証部
2 0 5	経理部
2 0 6	後処理部
3 0 1	発券受付部
3 0 2	認証部
3 0 3	発券処理部
3 0 4	報告部
4 0 1	興行主催者マスタ
4 0 2	イベントマスタ
4 0 3	会場マスタ 4 0 3
4 0 4	座席マスタ
4 0 5	販売者マスタ
4 0 6	販売ジャーナル
4 0 7	携行者マスタ
4 0 8	電子チケット
5 0 1	イベント企画部
5 0 2	情報登録部
5 0 4	進行状況管理部
6 0 1	座席情報形成装置
6 0 2	表示装置
6 0 3	選択装置
7 0 1	配券交渉部
7 0 2	マスタ登録部
7 0 3	購入受付部
8 0 1	読み出し部



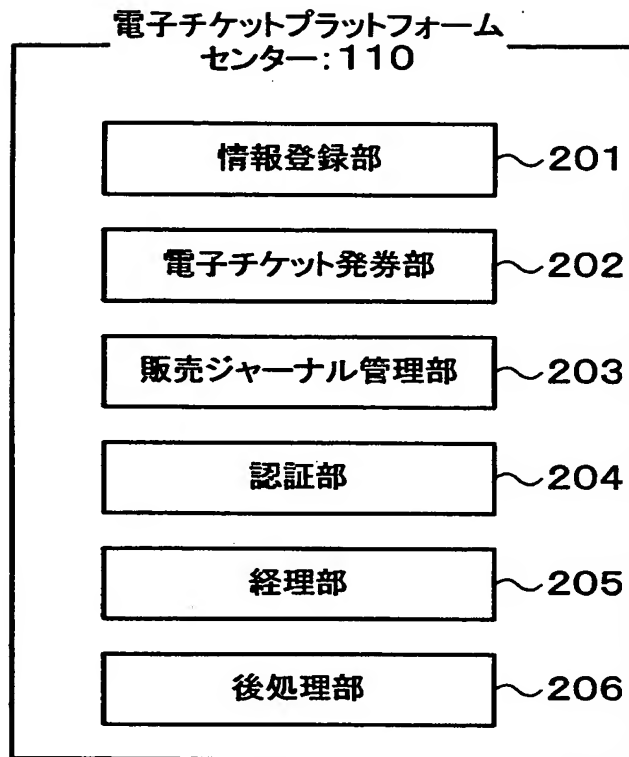
8 0 2	認証部
8 0 3	書き込み部
8 0 4	経理部
8 0 5	出力表示部
9 0 3	表示部
9 0 4	情報管理部
9 0 5	後処理部
1 0 0 0	I C カード
1 0 0 1	I C カードの携行者
1 0 0 2	I C カードリーダー
1 0 0 3	表示装置
1 0 0 4	プリンタ

【書類名】 図面

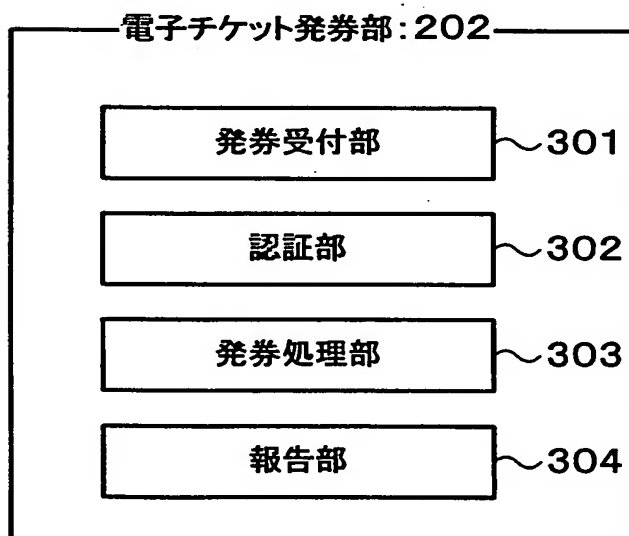
【図 1】



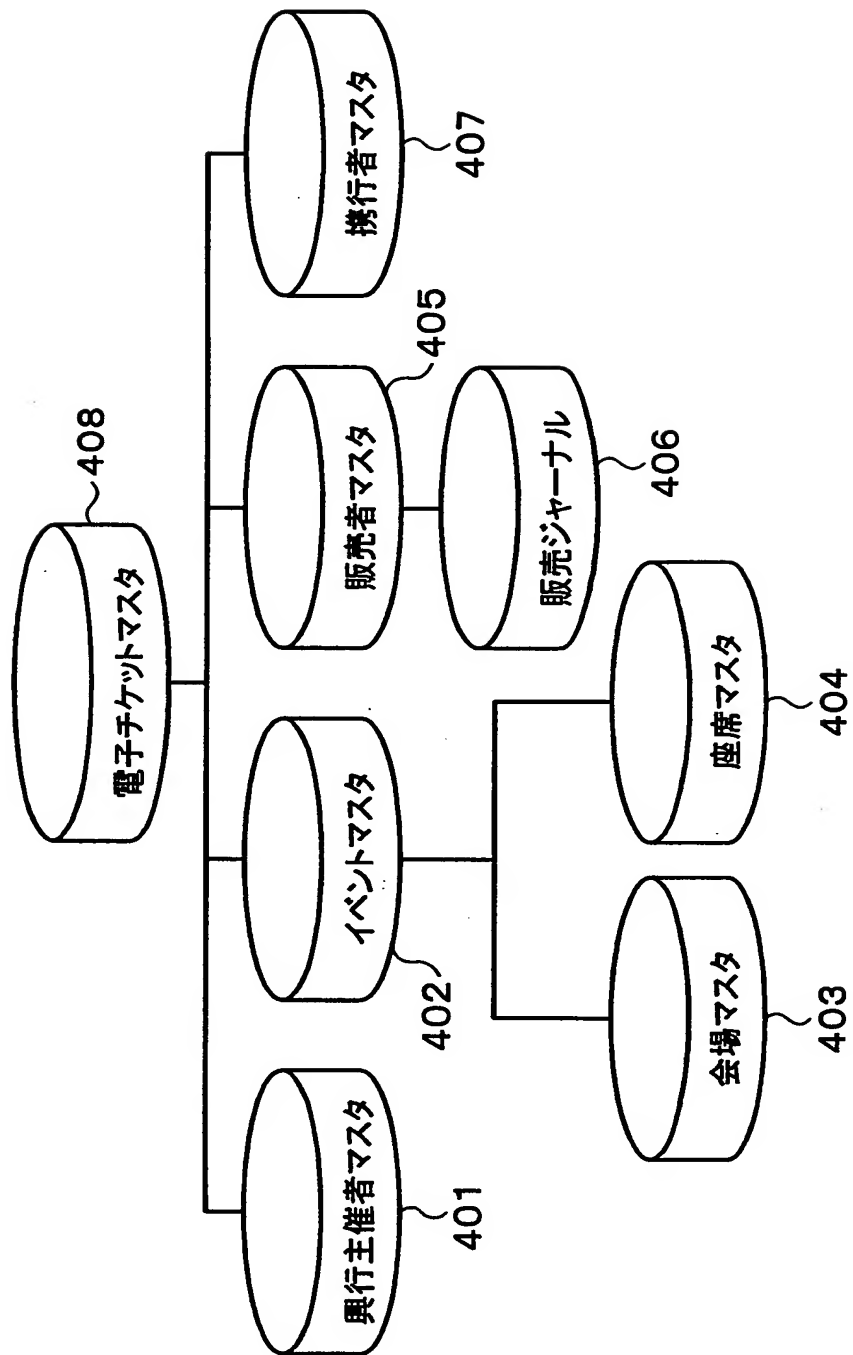
【図 2】



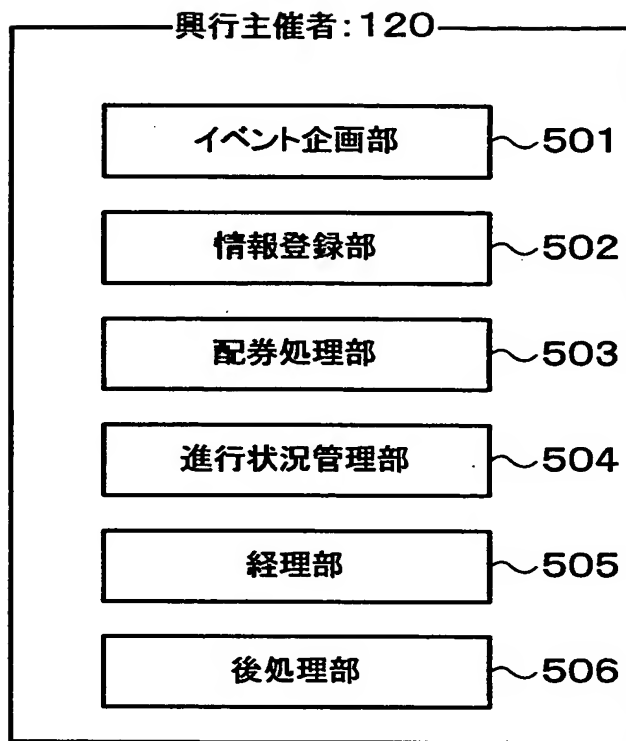
【図 3】



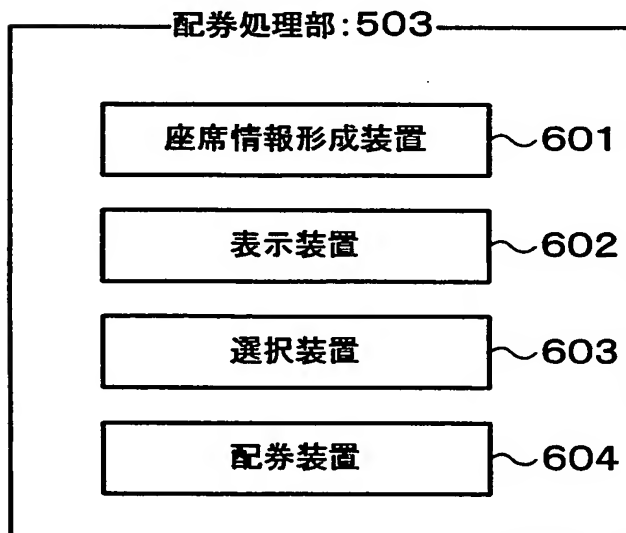
【図4】



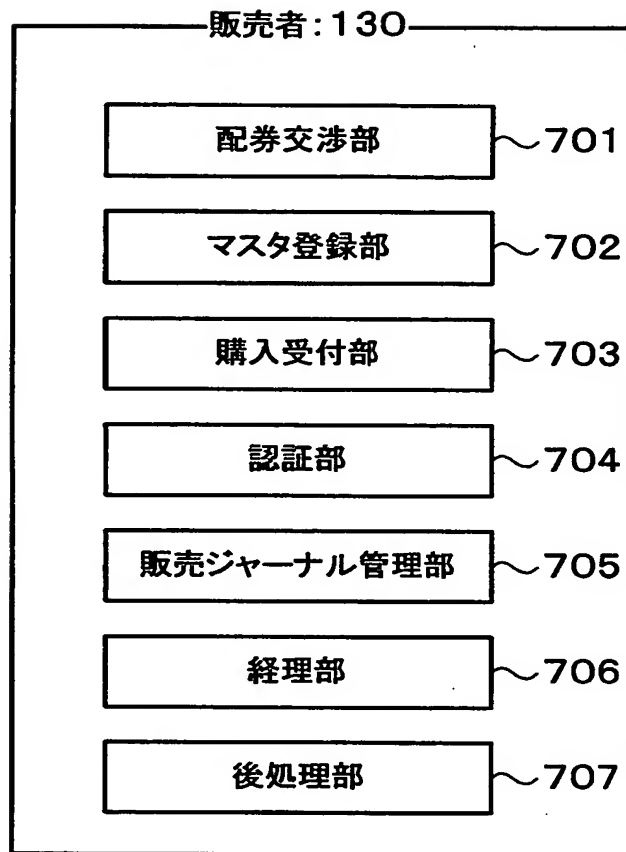
【図 5】



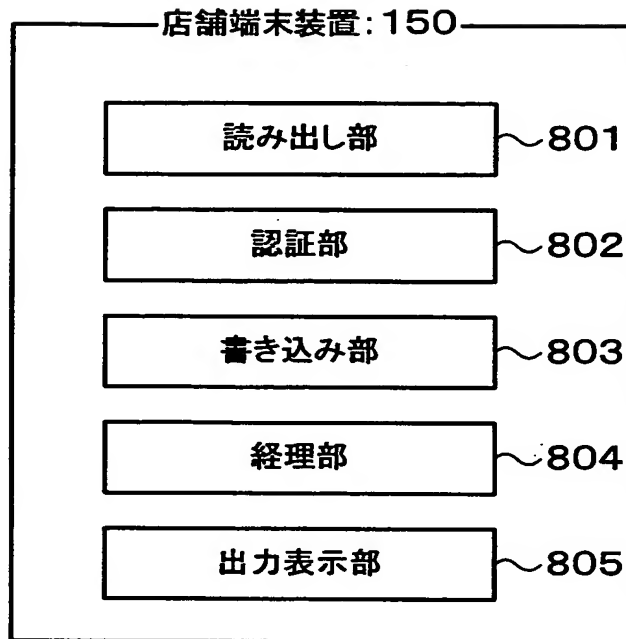
【図 6】



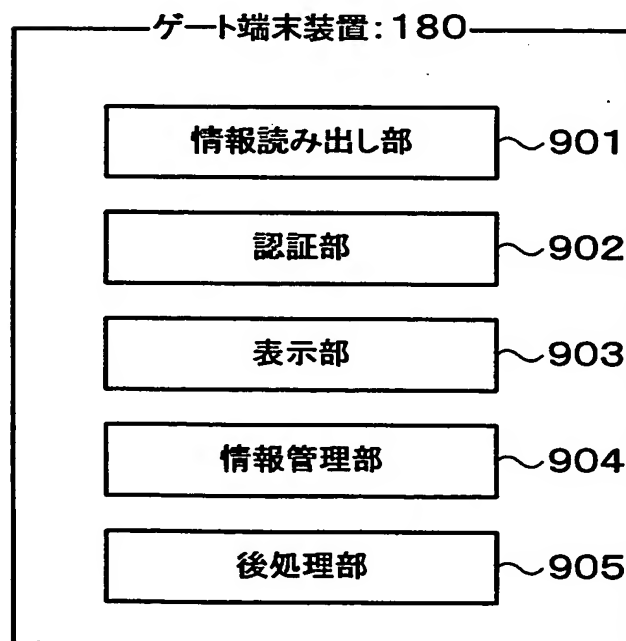
【図7】



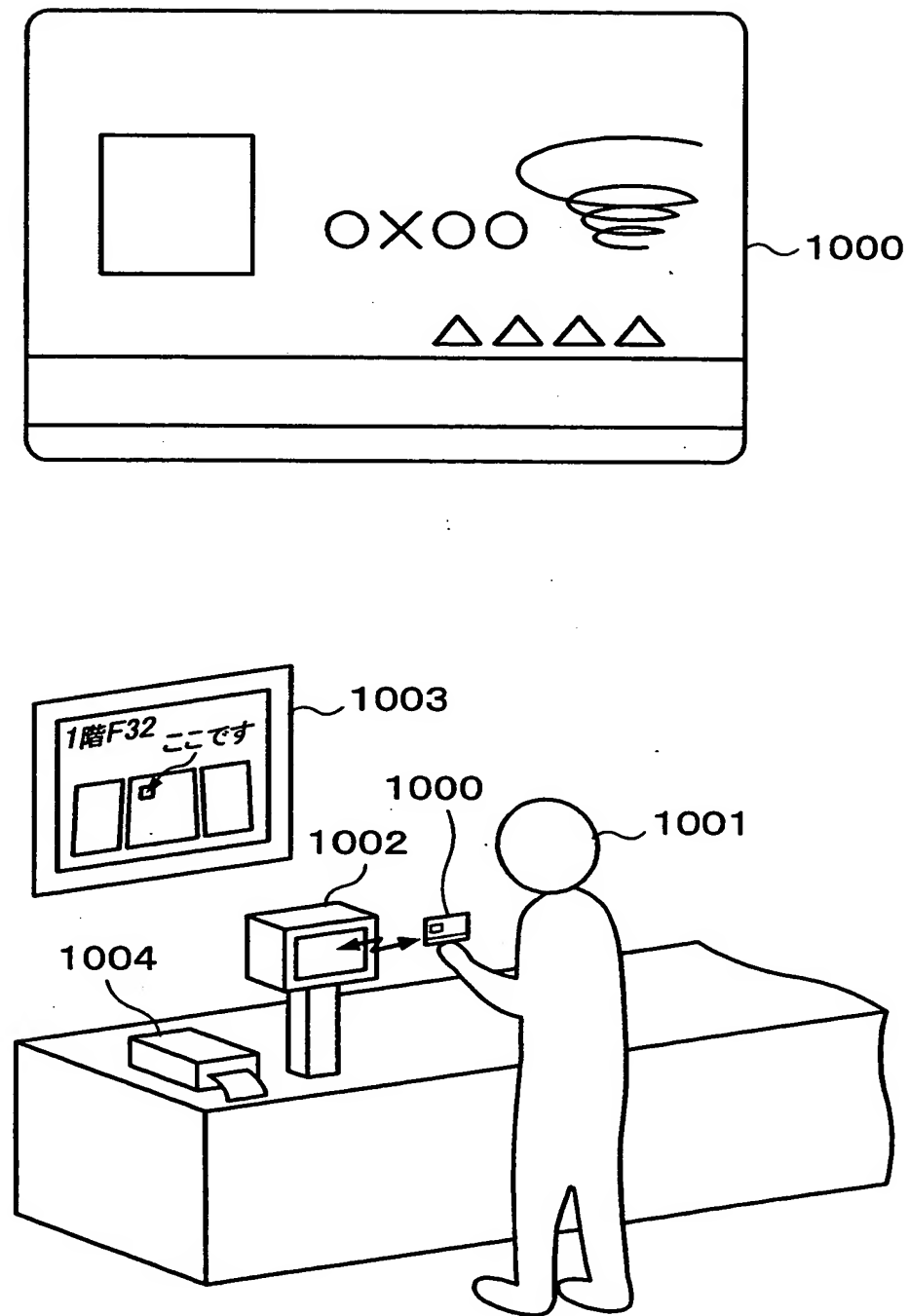
【図 8】



【図 9】



【図10】



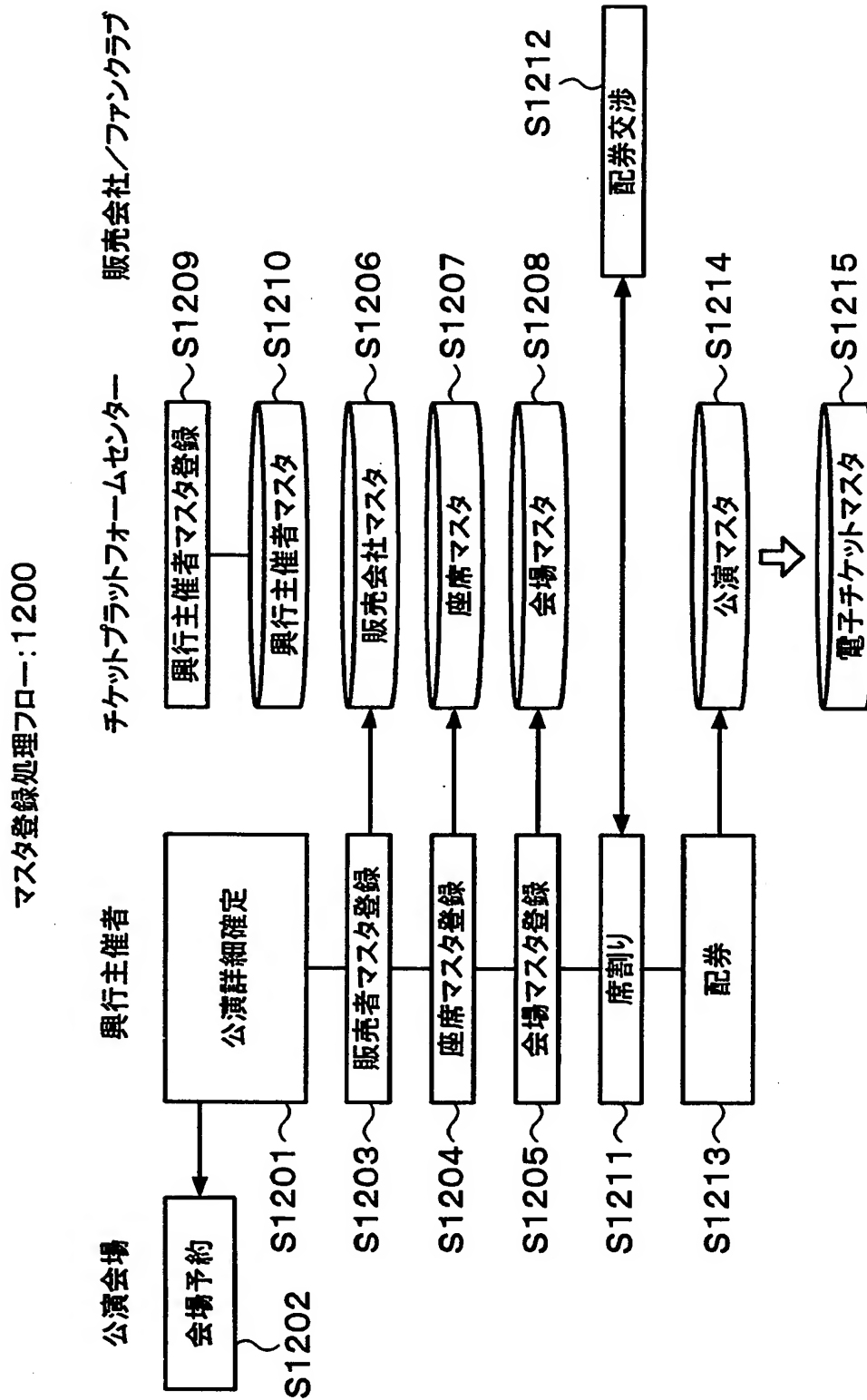


【図 1 1】

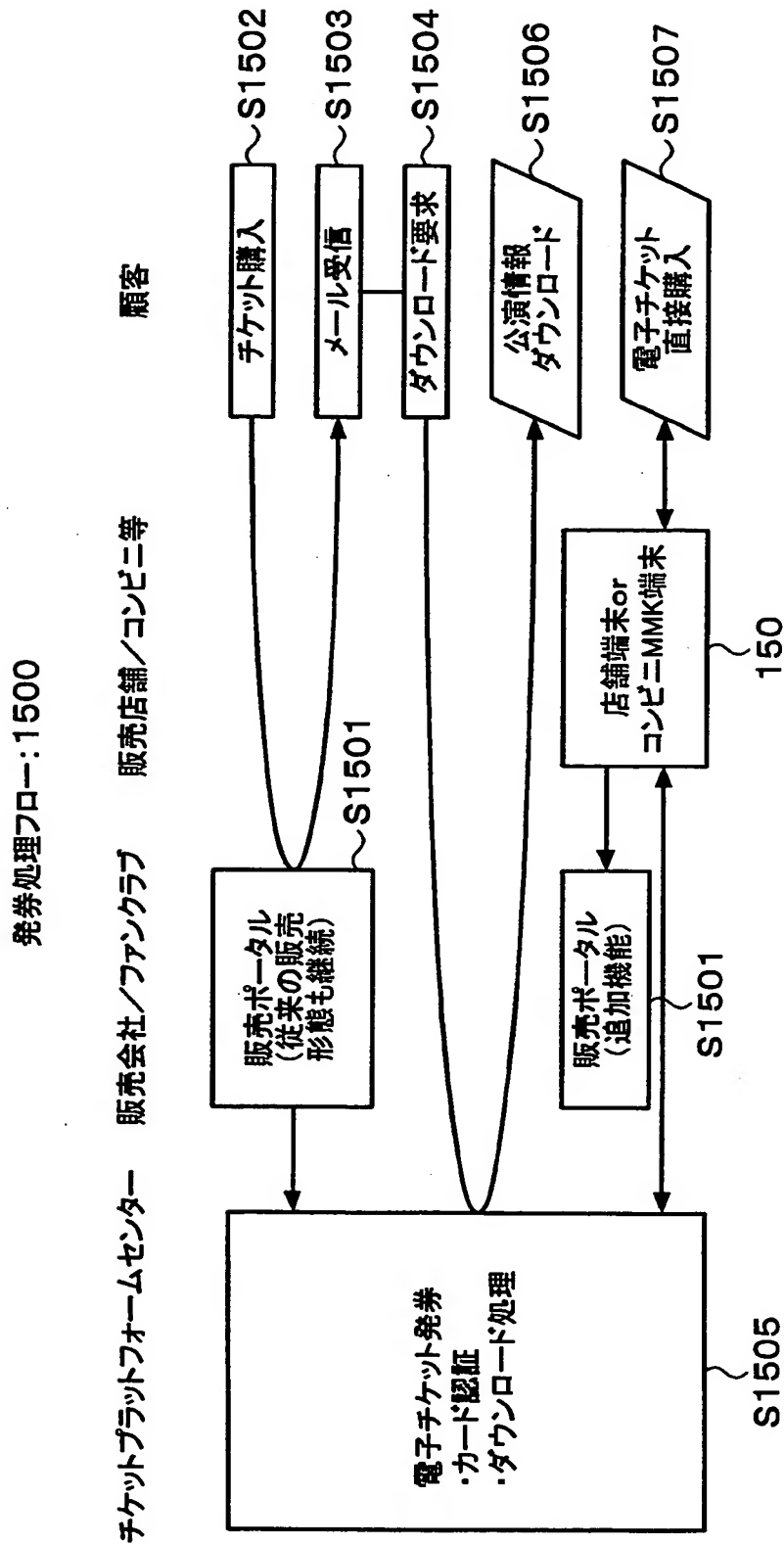
## 電子チケット情報データ構造

#0000	発行体エリア	法人コード	1
#0001		法人名	1
#0002		会員コード	1
#0003		会員名	1
#0004		会員種別	1
#0005	公演IDエリア	公演ID1	FLG 1
#0006		公演ID2	FLG 1
#0007		公演ID3	FLG 1
#0008		公演ID4	FLG 1
#0009		公演ID5	FLG 1
#000A	公演情報エリア1	公演情報1	24
:		"	
#0022	公演情報エリア2	公演情報2	24
:		"	
#003A	公演情報エリア3	公演情報3	24
:		"	
#0052	公演情報エリア4	公演情報4	24
:		"	
#006A	公演情報エリア5	公演情報5	24
:		"	
:	:	:	:
:	:	:	:
#0090	公演情報エリア5管理データ	read-only(non key)	1
#0091	"	read/write	1
#0092	公演情報エリア4管理データ	read-only(non key)	1
#0093	"	read/write	1
#0094	公演情報エリア3管理データ	read-only(non key)	1
#0095	"	read/write	1
#0096	公演情報エリア2管理データ	read-only(non key)	1
#0097	"	read/write	1
#0098	公演情報エリア1管理データ	read-only(non key)	1
#0099	"	read/write	1
#009A	公演IDエリア管理データ	read-only(non key)	1
#009B	"	read/write	1
#009C	キューエリア管理データ	read-only(non key)	1
#009D	"	read/write(non key)	1
#009E	発行体エリア管理データ	read-only(non key)	1
#009F	"	read/write	1
#00A0	Area0000 Defintion Block		
#00A1	System Defintion Block		
#00A2	Issue ID Block		
#00A3	Manufacture ID Block		

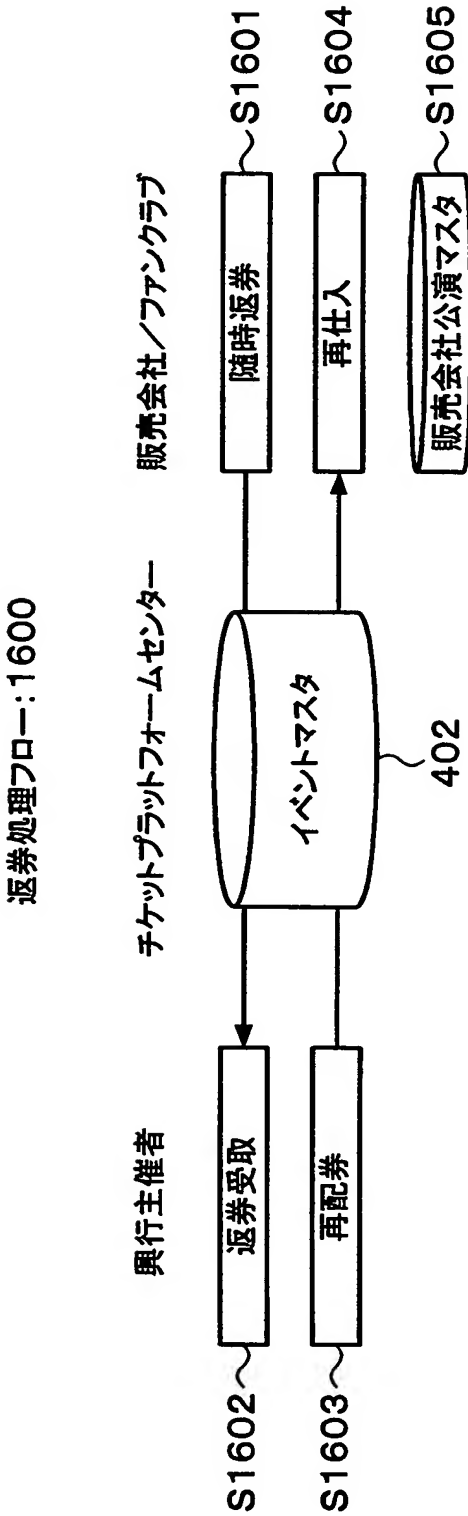
【図 12】



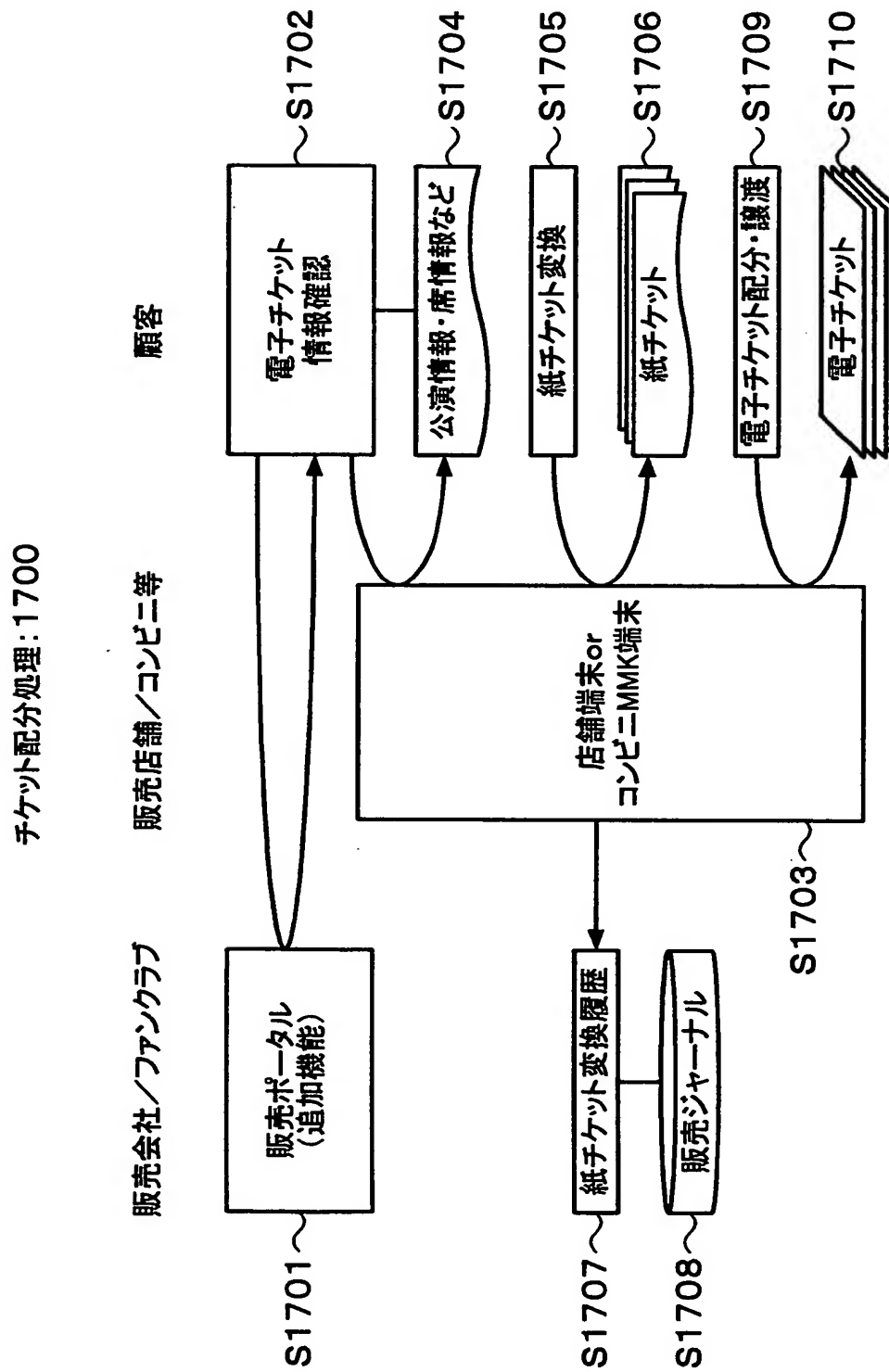
【図 13】



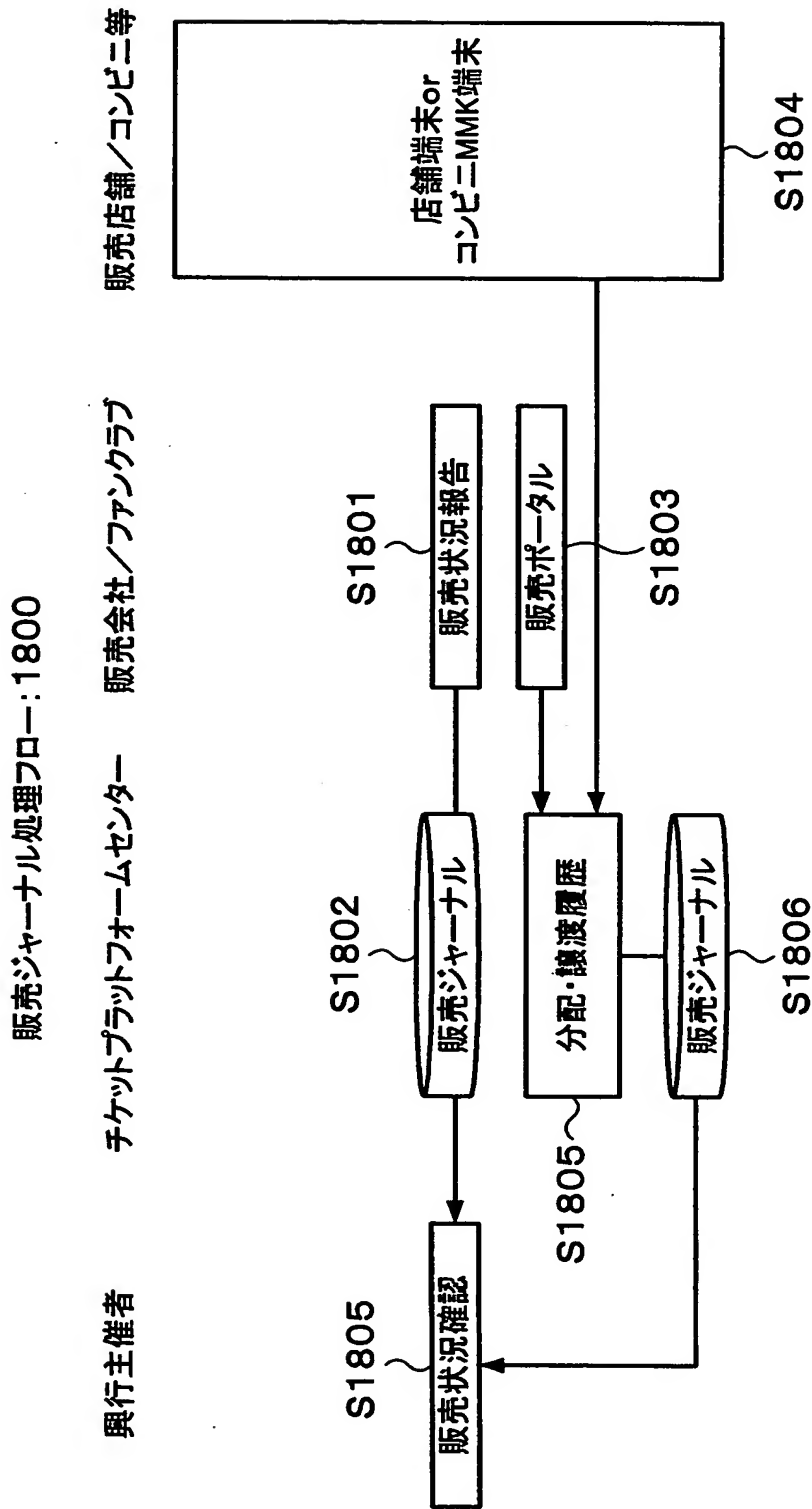
【図 1 4】



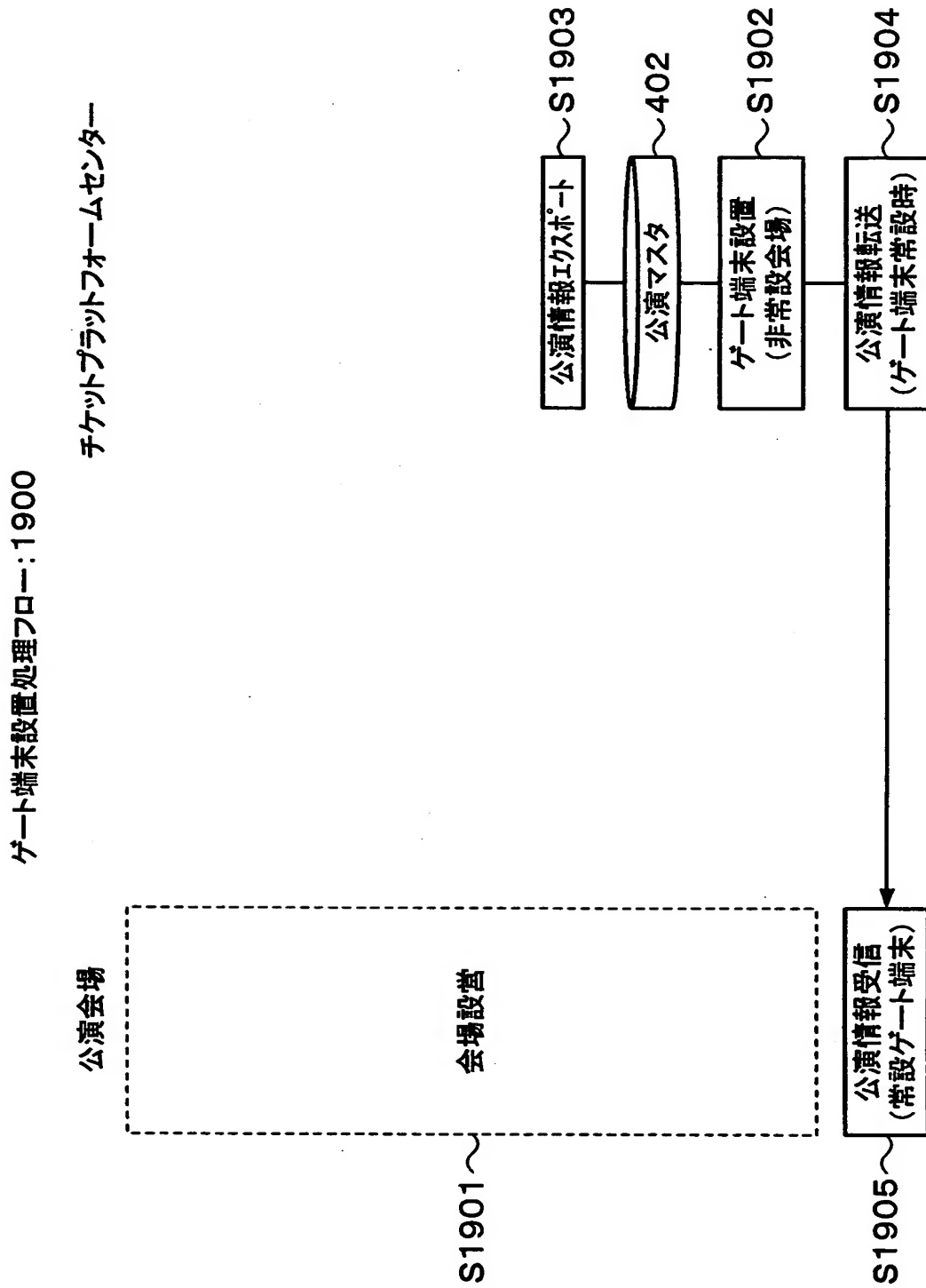
【図 15】



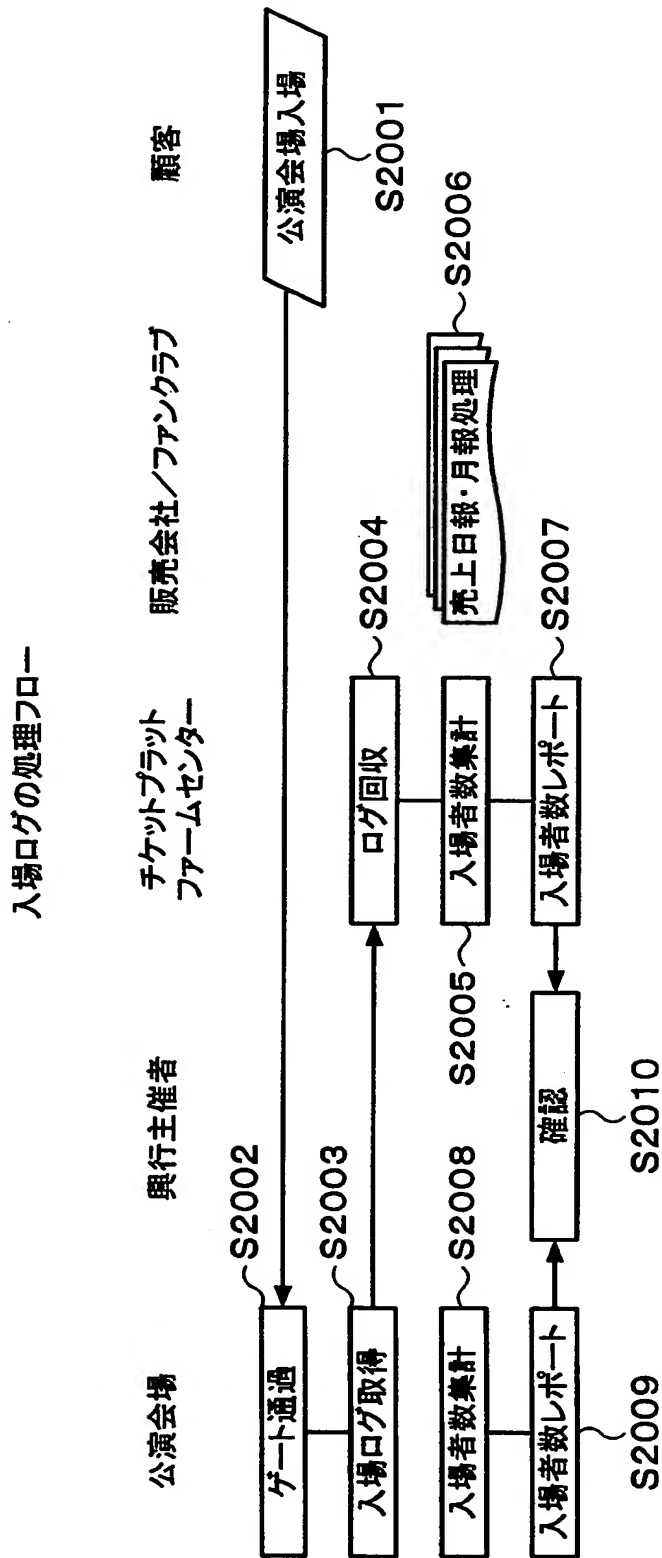
【図 1 6】



【図 17】

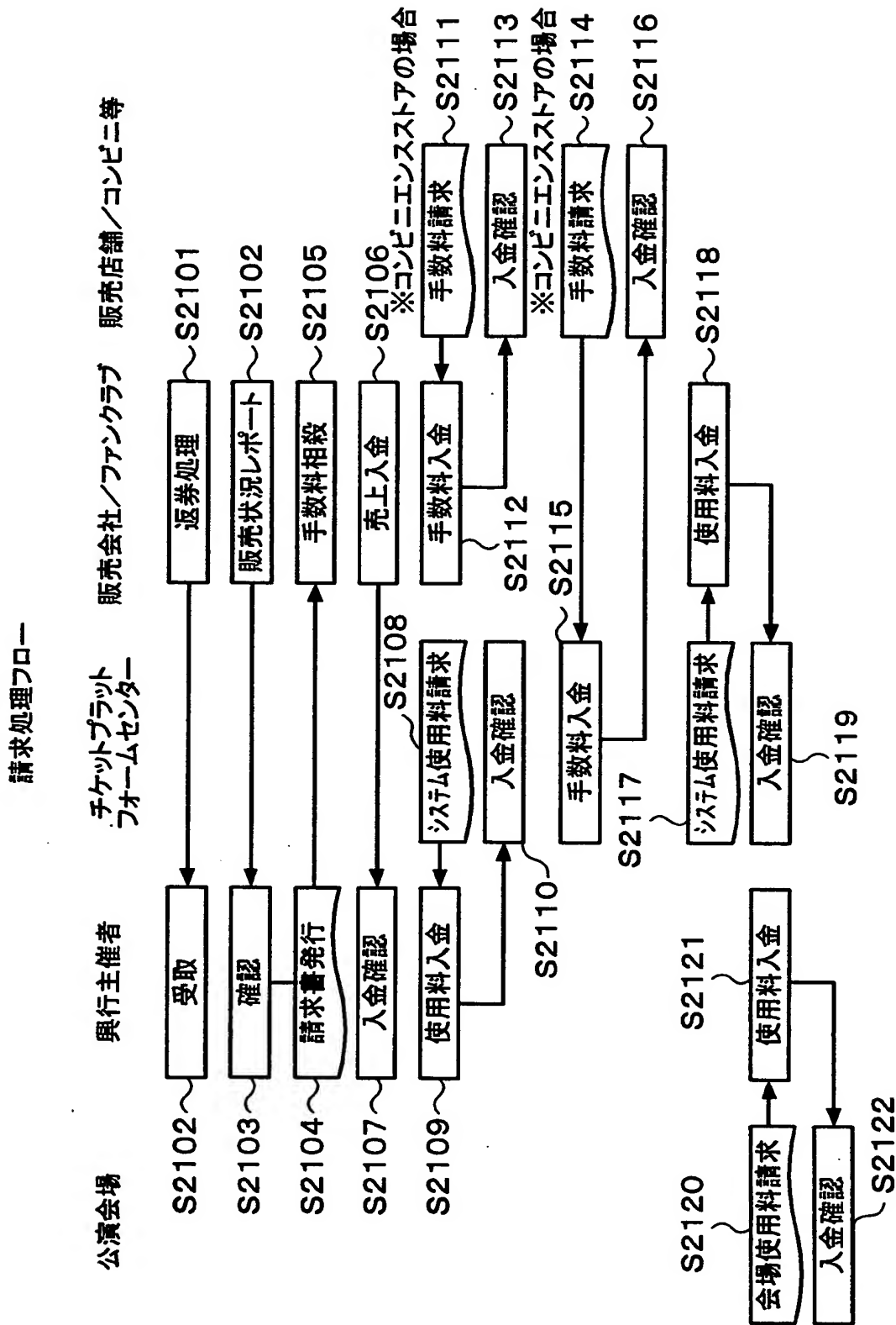


【図 18】

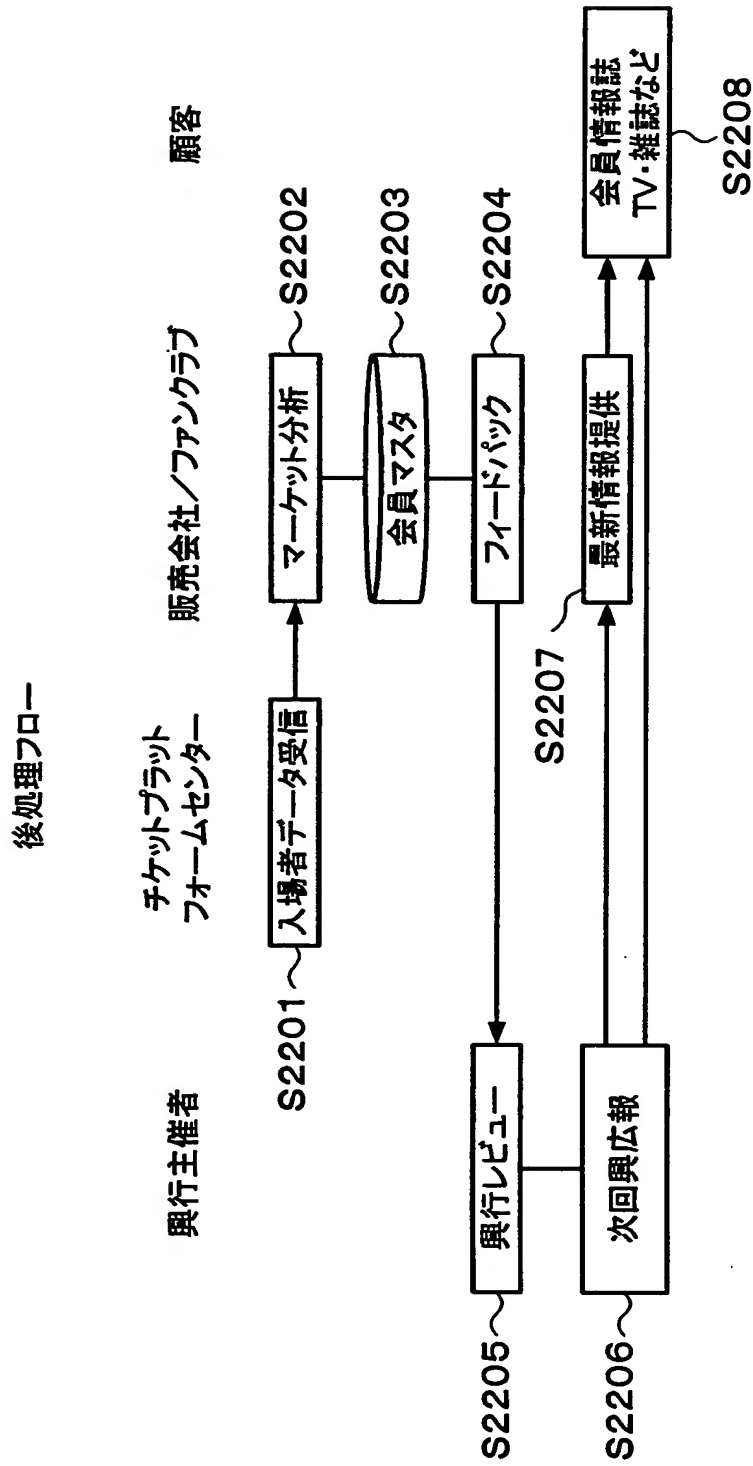




【図 1 9】



【図 2 0】



【図 2 1】

2300

販売会社マスタ管理

コード:

名称:

所在地:

⋮

登録

検索

変更

削除

印刷

2302

2301

2303

【図 2 2】

2400

興行主催者マスタ管理

コード:  2402

名称:  2401

所在地:  2403

⋮

登録

検索

変更

削除

印刷

【図 23】

2500

会場マスタ管理

コード:

2502

名称:

2501

所在地:

2503

段数:

列数:

2506

席数:

2505

2504

登録

追加

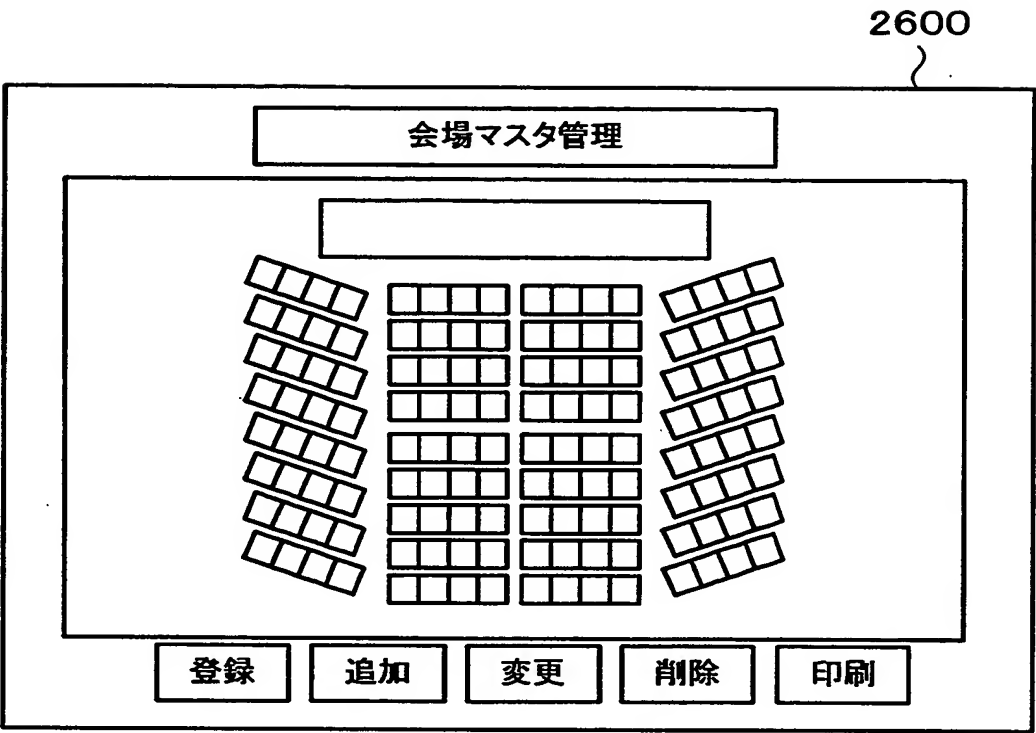
検索

変更

削除

印刷

【図 2 4】



【図 2 5】

2700

イベント公演マスタ管理

日時:  2704

名称:  2702

アーティスト:  2701

開催地:  2703

⋮

登録

追加

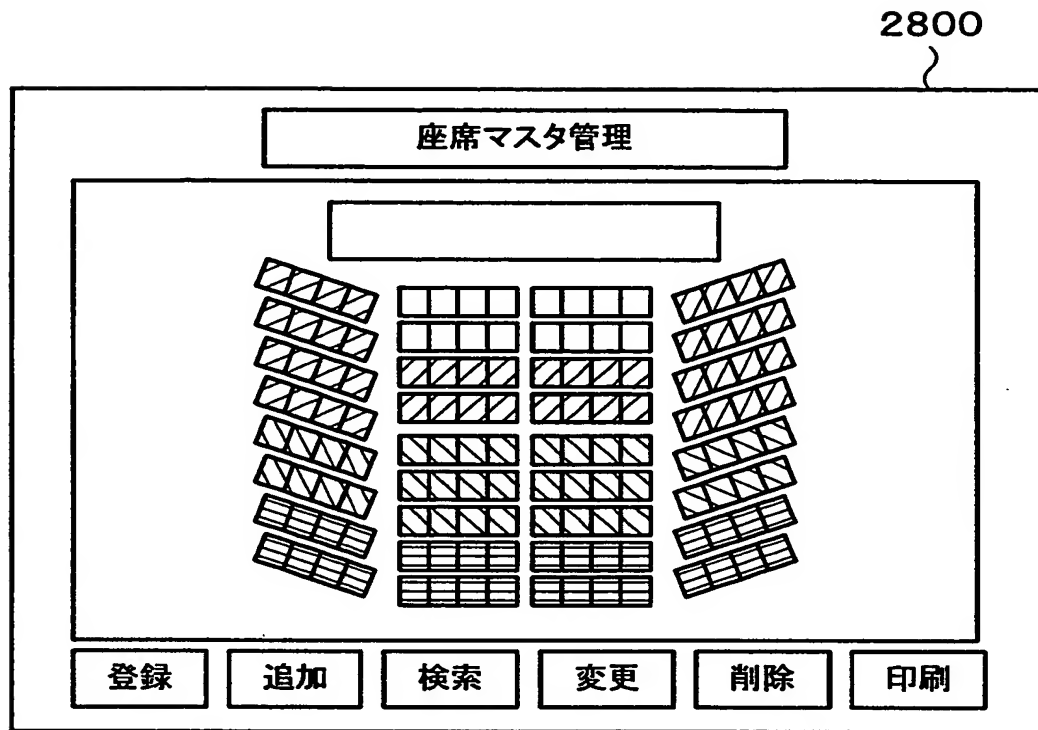
検索

変更

削除

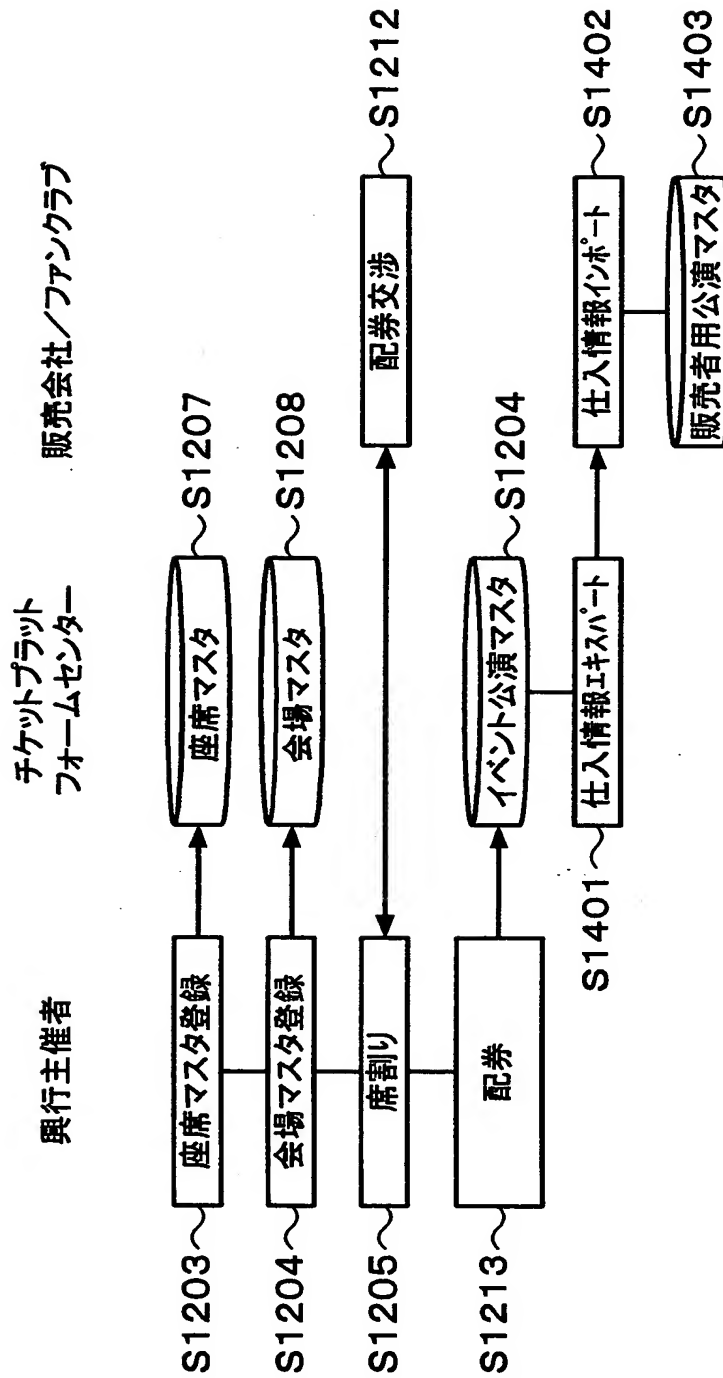
印刷

【図 2 6】

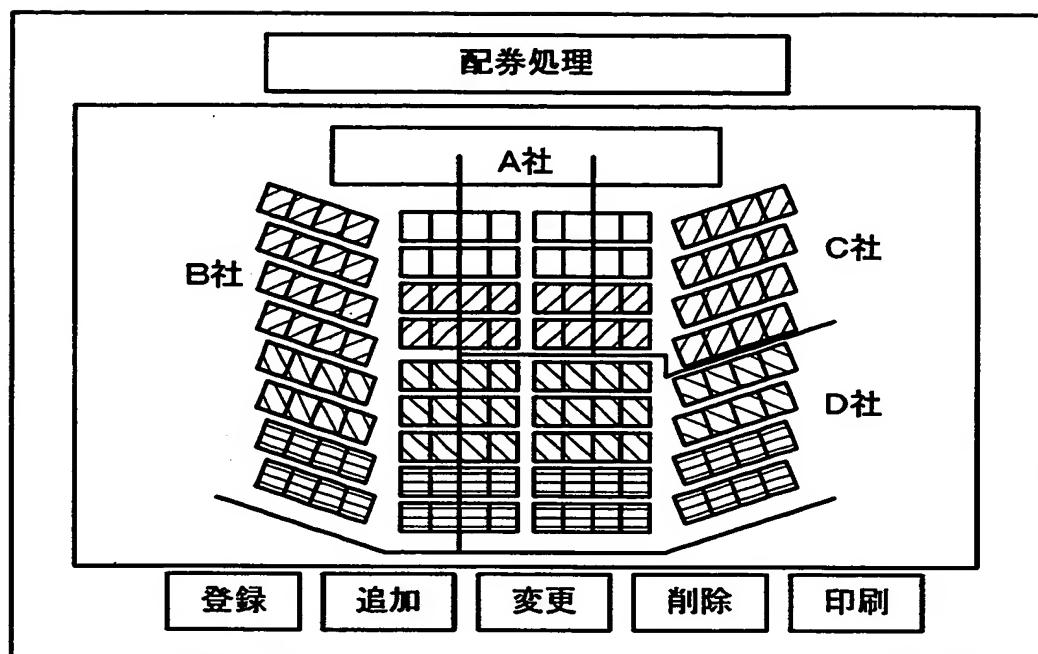




【図 2 7】



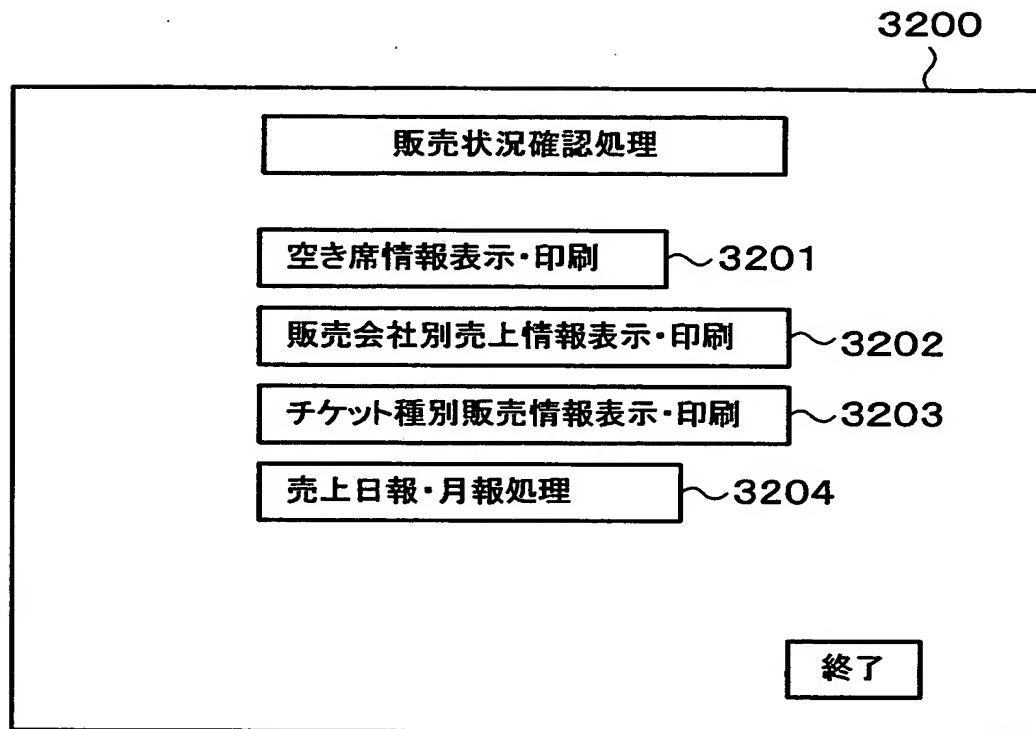
【図28】



【図29】

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							

【図 30】



【図 3 1】

3300

日時:

名称:

アーティスト:

開催地:

X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X</			

【図 3 2】

webブラウザ
公演名: XXXXXXXX 場 所: PPPPPPPP 日 時: YY/MM/DD 14:00~17:00 ----- 席番号: A席 A-13 ----- 購入しますか? [購入] [キャンセル]

【図 3 3】

webブラウザ
ご購入ありがとうございます。  ※ 電子チケットカードへのダウンロード 処理は、別途メールにて御知らせします。  ※ お席や会場までの案内図は チケット検索画面でご確認ください。  [終了]

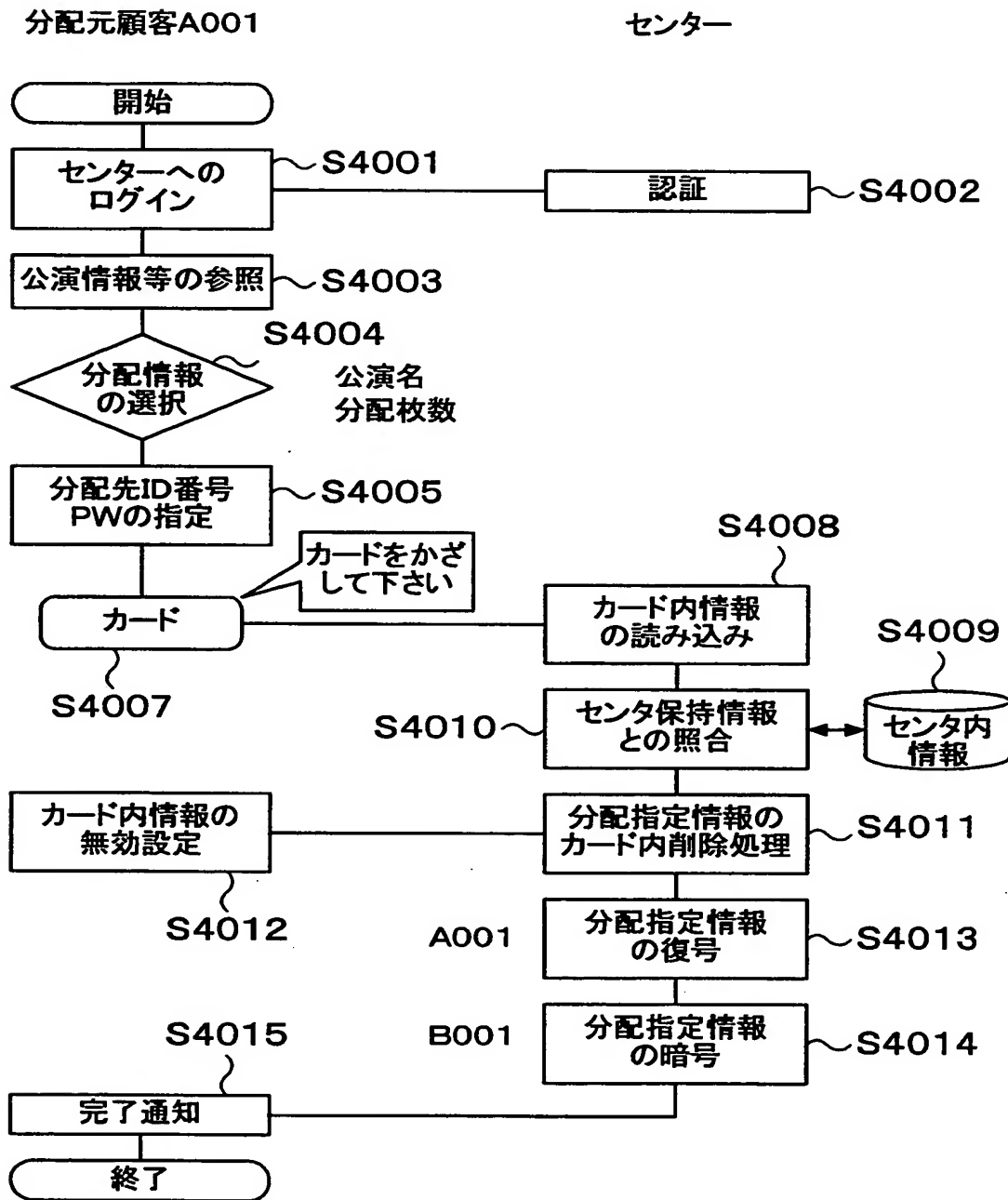
【図 3 4】

電子チケットダウンロードサイト	
公演名: XXXXXXXX	<div>チケットセンターウィンドウ</div> <div>電子チケットカードを R/Wにかざしてください。</div> <div>[キャンセル]</div>
場 所: PPPPPPP	
日 時: YY/MM/DD 14:00~17:00	
----- 席番号: A席 A-13 -----	
ダウンロードを開始します。	
[OK] [キャンセル]	

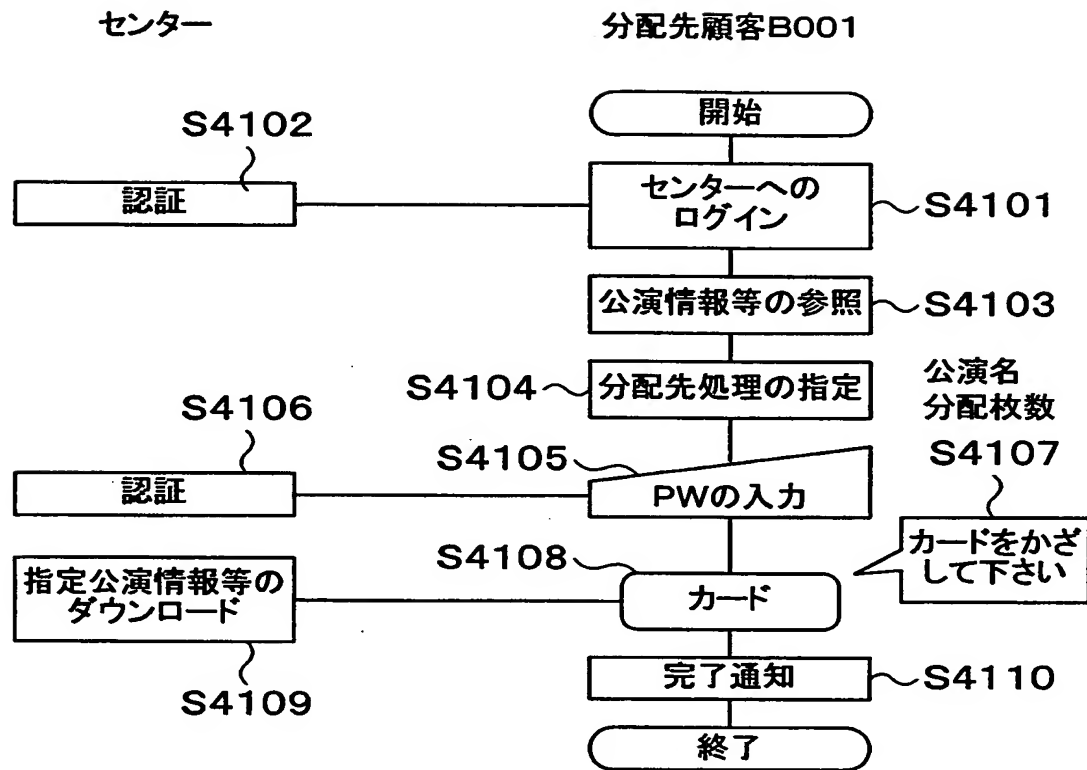
【図 3 5】

請求処理
配券システム利用明細作成
ゲート使用明細作成
請求書作成処理
終了

【図 36】

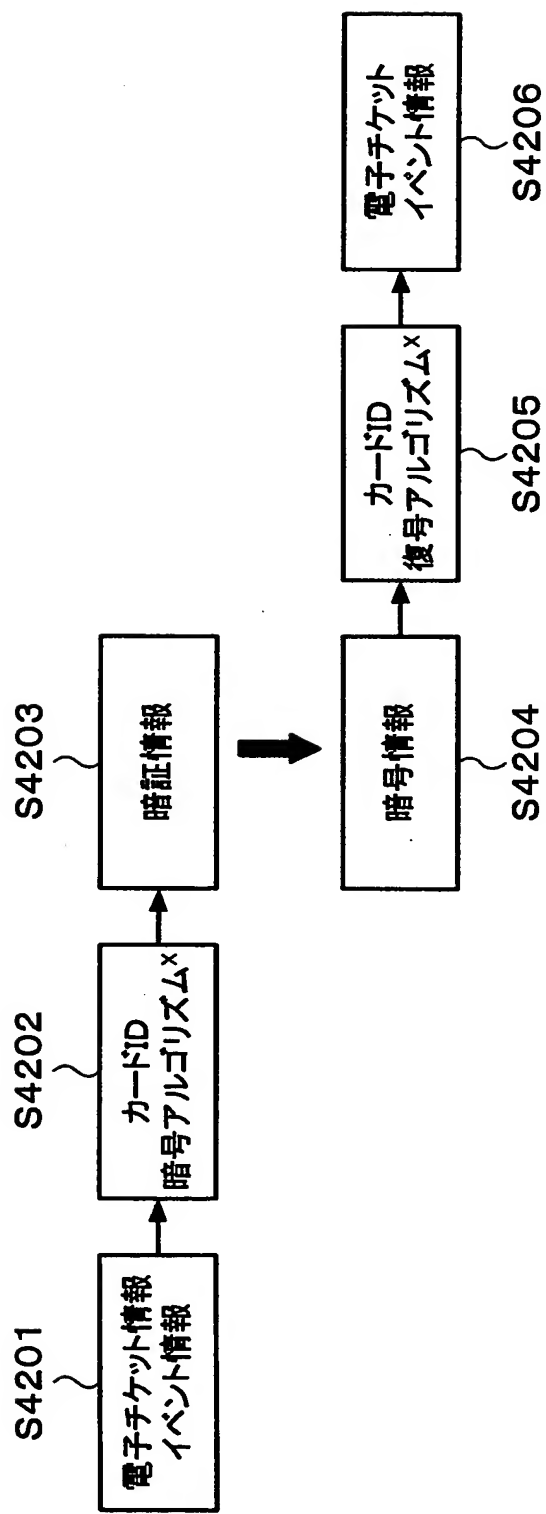


【図 3 7】



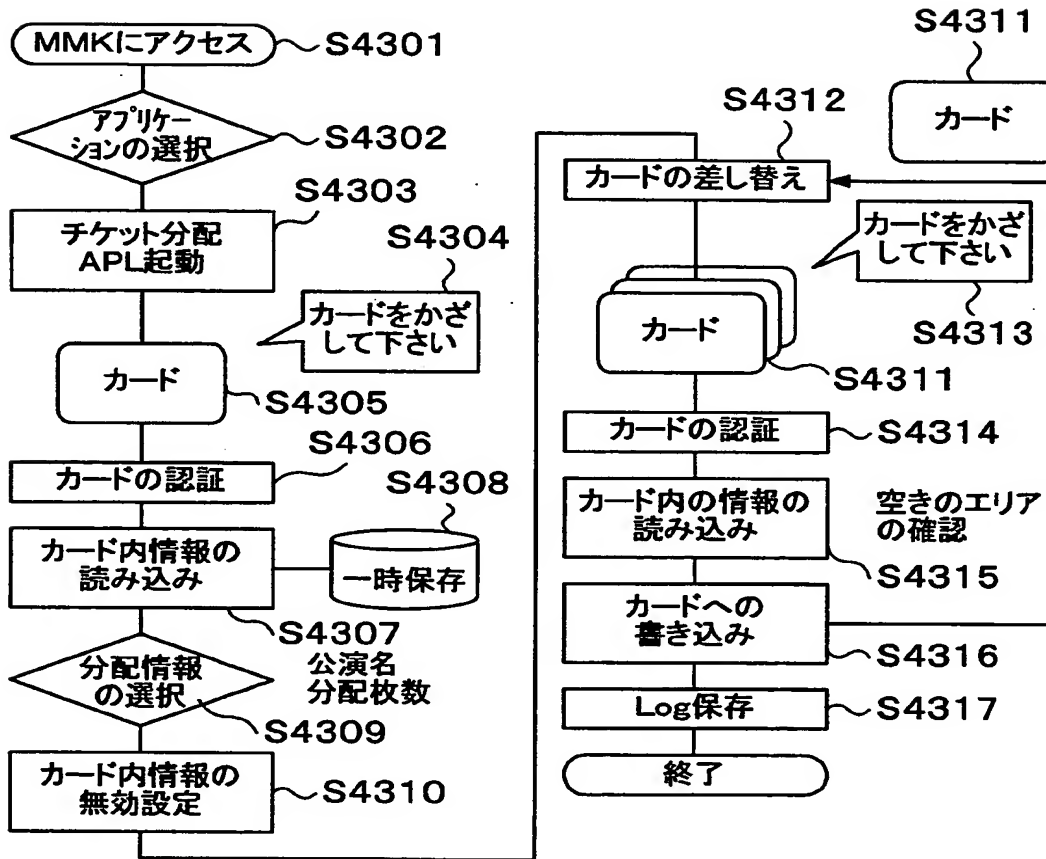


【図 3 8】



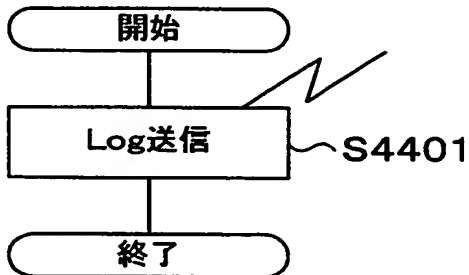
【図39】

分配元顧客／分配先顧客－店舗用  
端末装置間(MMK)

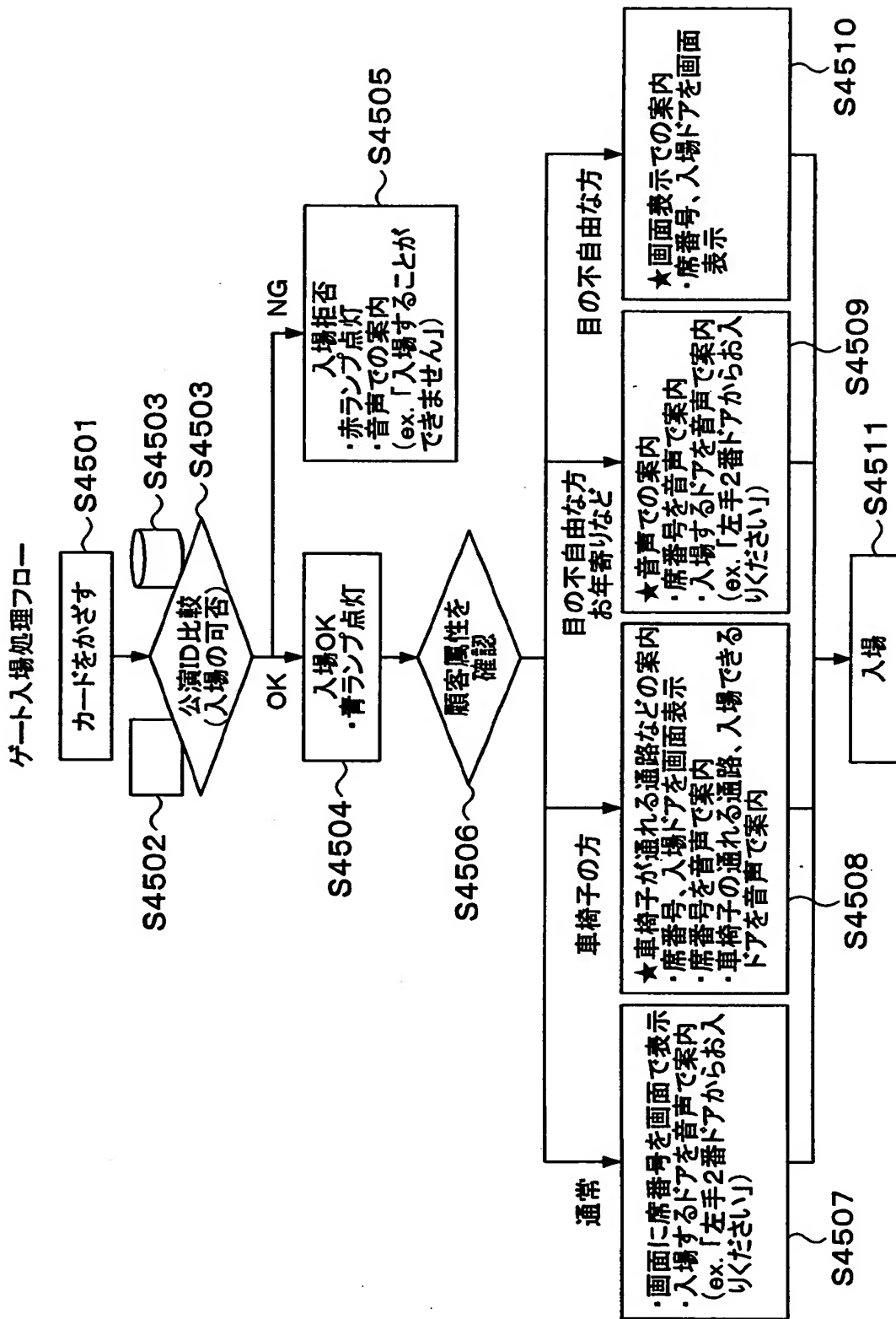


【図40】

店舗用端末装置－センタ間



【図 4 1】



【図 4 2】

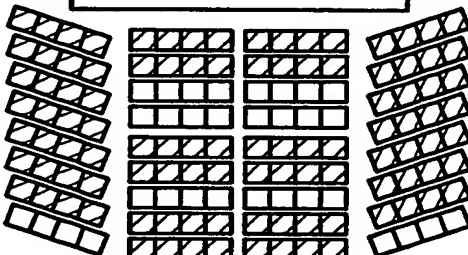
公演ID	フロアー	席番号	会員NO	お客様名	お客様属性	生年月日(西暦)
00000010	2F	は-27	00001111	加阿戸 太郎	A0	1930/10/25

・A0:健全者  
・B1:視覚障害あり  
・B2:聴覚障害あり  
・C1:車椅子  
etc.

【図 4 3】

入場情報表示処理

入場者数:



印刷

終了

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 入場者を円滑に誘導可能な電子チケットを利用したゲート管理システムを提供する。

【解決手段】 電子チケット情報を記憶可能な情報記憶チップを利用した電子チケット管理システムである。イベントごとに固有のイベント情報を形成し、イベント情報に関連付けて電子チケット情報を形成する電子チケット情報形成装置 120 と、電子チケット情報を情報記憶チップに記憶可能な電子チケット情報書き込み装置 130 と、イベント情報に対応するイベント会場に設置されて、情報記憶チップに記録された電子チケット情報を読み出し、読み出された電子チケット情報に含まれるイベント情報が正規のイベント情報である場合にのみ情報記憶チップ携行者の入場を許可する電子チケット情報読み出し装置 180 とを備えている。イベント情報のみによって入場の可否を判断するので、効率的なゲート管理システムを構築できる。

【選択図】 図 4 1



特2000-393083

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都品川区北品川6丁目7番35号

氏 名 ソニー株式会社



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☐ **BLACK BORDERS**

☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**

☒ **FADED TEXT OR DRAWING**

☒ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**

☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**

☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**

☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**

☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**

☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**

☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**